

変動気象に耐えられる後期栄養増強と土づくり等の実践で高品質米生産!!

～ 最重点5項目の確実な実践で1等米90%! ～

1. 令和7年度エコ・5-5 運動の重点技術対策 太字の5項目は最重点 〃:新規・強化取組

重点技術対策	具体的な取り組み
変動気象に耐えられる「土づくり・元気な根づくり」	①作土深は15cmを確保しましょう(スタブルカルチ・“回り耕ち”等) ②堆肥・完熟発酵ケイフン(みらい有機)・ケイ酸質資材による土づくりを推進 ③稲わら秋すき込みと、もみ殻をほ場に還元しましょう
健苗育成と「良質茎の早期確保で安定収量を確保」!	①深植えを是正し、健苗育成と移植前追肥で活着・初期生育を促進しましょう ②完熟発酵ケイフン等による基肥窒素量の補填(砂質土壌等低地力ほ場)と基肥量(P・K含む)の再点検(粘土質土壌等の高地力ほ場)を行いましょ ③5月10日以降で5月20日を中心とした田植えの推進により、8月5日以降の出穂を目指しましょう(4月20日～5月上旬播種の推進) ④水の更新や夜間落水により、中干し時期までのワキ防止と根の健全化を図りましょ
適期中干しによる生育調節で「倒伏させない稲づくり」	①田植後1か月を目途に茎数を確認して中干し・溝切りを実施ましょ ②本格的な梅雨入り前に地耐力を確保、過剰籾数を抑制ましょ ③“小ヒビ”中干しを基本とし、軟弱圃場では強め中干しでコンバイン収穫の地固めをましょ
的確な生育診断と倒伏させない穂肥で「高温に強い稲づくり」	①葉色による穂肥診断とスマート技術の活用で、ほ場生育の均一化を目指ましょ ②高温に耐えられる後期栄養の増強で背白粒等の白未熟粒の発生を防ぎましょ ③8月の高温常態化に対応した慣行栽培の化学合成窒素使用量の見直しに伴いエコ栽培における穂肥化学合成窒素使用量が0.5kg/10a増施可となります ③品質と良食味を兼ね備えた適正玄米タンパク質含量(コシヒカリ:5.5～6.0%)
高温気象下における「こしいぶきの高品質安定生産」	①完熟発酵ケイフン等による基肥窒素量の補填と生育の大型化 ②健苗育成と適正栽植株数(60株以上/坪)、深植えを是正し良質茎・穂数を確保ましょ ③生育量確保と除草剤処理層維持のため6月10日を目途に中干しを開始ましょ ④積極的穂肥による後期栄養確保上限補給で品質・収量を両立ましょ
こまめな水管理で「粒張りのよいおいしい米づくり」	①飽水管理又は間断かん水を徹底し、根の活力、葉色及び地耐力を確保ましょ ②台風・フェーン時は事前湛水し、水温上昇を抑えるこまめな水管理を行いましょ ③最終かん水日は出穂後25日以降とし早期落水をしないようにましょ
少ない農薬使用で効果的な雑草・病虫害防除	①初中期一発剤・中後期剤により水田内雑草を効果的に防除ましょ ②いもち病及び紋枯病は予防防除が基本です(フジワンモンカット粒剤、フジワン剤)
適期収穫と丁寧な選別で「全量“1等米”へ」	①収穫適期情報+②ほ場の籾黄化程度85～90%で収穫適期判断+③高温・フェーン時の過乾燥防止により、胴割粒の発生を防止ましょ(適期収穫・適正乾燥) ④選別網目1.9mmを使用し、整粒を確保して1等米に仕上げましょ ⑤収穫適期期間内に刈取りを行うために、ントリーエレベーター等の共同乾燥施設を活用ましょ

※令和7年度第1回エコ・5-5運動代表者会議が2月26日に開催され、承認されました。

「苗半作」米づくりのスタートは丁寧に行うのじゃ!!



2. 育苗作業手順

(1) コシヒカリの作業計画

高温気象に対するリスク分散を図るため、5月10日田植えのほか5月20日中心の田植えも行いましょう。

作業内容	5月10日田植えの場合	5月20日田植えの場合
浸種	4月8日開始～4月17日終了	4月21日～4月29日
催芽	4月18日開始～4月19日終了	4月30日～5月1日
播種	4月20日	5月2日
育苗	4月20日～5月9日	5月2日～5月20日
田植え	5月10日～	5月20日～

※5月10日以降田植えは、エコ・5-5米コシヒカリの要件です。

5月後半以降田植は、苗の出葉(成長)が早いため、徒長苗・老化苗に注意し計画的な播種を行いましょ

【休眠情報】

「令和6年産のコシヒカリBL種子の休眠は、やや深いと推定される」作物研究センターより

3. 浸種 ～休眠性がやや深い為“ていねいな浸種・催芽”を心がけましょ～

(1) 適切な水温のめやす = 浸種温度12℃

品種	浸種温度×浸種日数	積算温度
コシヒカリBL	12℃×10日間	120℃
新之助・こしいぶき	12℃×8～9日間	100℃

ていねいに浸種されて十分に給水した種籾は「籾殻が透きとおったアメ色」になります

(2) 浸種初期の低水温(10℃未満)は、発芽揃いが悪くなります。浸種初期水温は10℃未満の低水温にならないよう注意してください

※エコ・5-5の場合、他の薬剤消毒剤と一緒にしないでください。

(3) 浸種期間は酸素不足にならないよう十分な水量を確保し、水の更新を適切に行ってください。(浸種初日から1日おきに交換してください。)

水切りは浸種期間中に、2回以上行なってください。必ず、別の台(めざら等)に移して水切りしてください。

※モミガードC等(慣行栽培)の薬剤消毒済み種子籾は、消毒効果を高めるため浸種開始から4日間程度は水を入れ替えないでください。

(4) 浸種水槽に直射日光が当たらないよう屋内等で浸種して下さい。

4. 催芽

(1) 催芽温度 … 30℃(こまめに水温を確認ましょ)

(2) タフブロック剤の処理 … 褐条病・ばか苗病等の予防

※注意:種子籾は温湯消毒済みであっても、褐条病やばか苗病等の発生を防ぐために、必ずタフブロックによる消毒を行ってください。タフブロック処理した種子籾は、消毒効果を維持するため、水に浸けたり、洗ったりしないでください。

【使用方法】

農薬名	希釈倍率	使用時期	使用方法
タフブロック	200倍	催芽時	24時間種子浸漬

お問い合わせ先 ながおか営農センター ☎0120-915882 ながおか西営農センター ☎0120-915883

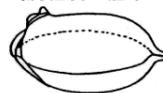
裏面もご覧ください。

催芽の状態を必ず確認しましょう！

(3) 催芽終了

- ① 催芽日数は1～2日を目安に、籾の発芽状態は鳩胸程度とし、発芽率が80%以上になったら終了し、陰干しします。
- ② コシヒカリ、五百万石等、例年休眠の深い品種は必ず催芽状態を確認してください。
- ③ 「こがねもち」「わたぼうし」「越淡麗」は発芽しやすいので、芽・根が伸び過ぎないように注意しましょう。

鳩胸程度の催芽



※催芽種子の冷水中での浸漬保管は厳禁です。(酸素欠乏で、根の発育が悪くなります！)

5. 育苗ハウスの準備

育苗ハウス周囲に小排水溝を掘って排水を良くし、育苗中のハウス内の滞水を防いでください。(ハウス内の排水が悪いと“ムレ苗”の原因になります。)

6. 消雪後の本田準備(田面水の排水)

根域の環境改善の為、枕地などで滞水している圃場では可能な限り小溝を切って、表面排水に努め、田面の乾燥を早めてください。



【参考】H29 年度宮内地域品質向上プロジェクト「砂利採取後排水不良ほ場の排水対策」
実証圃の本田準備排水状況 (H29 JA 越後ながおか、六日市)

7. エコ・5-5 運動遵守事項

- (1) 『令和7年度エコ・5-5 運動「肥料・農薬使用基準」(長岡地区)』を必ず遵守してください。基準を満たせない場合は「エコ・5-5 米」として販売が出来ないため、慣行栽培米としての扱いになりますので注意願います。
- (2) 作付け前(前年収穫後から)の圃場内に、除草剂等農薬は一切使用できません。
- (3) 箱処理剤「ゼロカウント粒剤(わたぼうし、新之助以外の品種)」、「GP オリゼリディア箱粒剤(わたぼうし、新之助)」は、いずれか1回のみ使用できます。
※JA育苗センターで播種した苗は全て「箱処理剤施用済み」ですので注意して下さい。
- (4) エコ・5-5 コシヒカリは、5月10日以降田植えが技術要件です。(但し、特認制度あり)
○「田植実施日報告書」により、田植日を報告していただきます。(6月)
- (5) エコ・5-5 米コシヒカリは選別網目1.9mmが技術要件となっています。
- (6) 「エコ・5-5 圃場看板」を、必ず設置してください。
4月5日頃に看板を配布します。**4月20日までに設置をお願いします。**
- (7) 圃場設置看板の素材変更等について
昨年度、看板設置後の強風などによる紛失などが多くあったため、今年度は耐久性のさらに強いものへ変更します。
設置方法については生産者の方より粘着テープなどで補強等いただくなどご協力をお願いいたします。

令和7年度エコ・5-5 運動「肥料・農薬 使用基準」【長岡地区】

農薬は、各剤1つの剤型のみ使用できます。

●=使用可能(重点品目) ○=使用可能 ×=使用不可 ____=新規

		農薬・肥料名	コシヒカリ こしいぶき その他	わたぼうし 新之助
育苗箱の消毒		イチバン	○	○
種子消毒(催芽時)		タフブロック	●	●
水田初期病害虫防除		ゼロカウント粒剤	●	×
		GP オリゼリディア箱粒剤	×	●
水田 除草剤	初期剤	ソルネット 1 キロ粒剤または エリジャン(乳剤・ジャンボ)	○	×
	初中期一発剤	カウシルエナジ-(1 キロ粒剤・ジャンボ・フロアブル)	●	●
	中後期剤	クリンチャー(1 キロ粒剤・EW・ジャンボ)	○	○
		クリンチャーバス ME 液剤 バサグラン(粒剤・液剤)	○	○
害虫防除(共同防除)		スタークル(液剤 10・粒剤・豆つぶ)	●	●
いもち病防除		フジワン (粒剤・1 キロ粒剤・ハック・乳剤)	○	●
		フジワンモンカット粒剤	●	×
紋枯病防除		モンカット粒剤・フロアブル	○	×
紋枯病防除		バリダシン(液剤 5・粉剤 DL・エアー)	○	○
いもち病防除		カスミン液剤	○	○
稲こうじ・墨黒穂病防除		ドイツボルドーA または Zボルドー(粉剤 DL・水和剤)	○	○

※ 農薬の使用にあたっては登録内容を遵守してください。

育 苗	「稚苗苗代配合」	○	○
	「ホーネンス培土1号」、「ホーネンス培土1号(Si、亜リン酸入り)」、「くみあい液肥2号」、「べんとう肥」	●	●
土づくり	完熟発酵ケイフン(みやぎ有機)、牛ふん、豚ふん、みつパワ-ニュー-米スタ-、ようりんケイカル、マルチサポート Fe、農力アップ 等	●	●
基 肥	「越後の輝き有機 50 元肥」 または 「フレーバーペースト 734」	●	●
	味好2号、フジミペレット 731、みらい有機 831	○	○
全量基肥 肥 料	「越後の輝き有機 50 スーパー元肥」(早生用)、 「越後の輝き有機 50 スーパー元肥ロング」(コシヒカリ用)	●	●
中間追肥	ウォーターシリカ、マルチサポート Fe、ス-パ-シリカ、塩化加里 けい酸加里プレミア 34、ニュー-米スタ-、ファイトアップ 等	○	○
穂 肥	「けい酸入りエコ・5-5 専用穂肥」	●	●
	味好2号、フジミペレット 731、フェサ- MAX、みらい有機 831	○	○

令和7年度の使用基準を事前にチェックするのじゃ!!





変動気象に耐えられる後期栄養増強と土づくり等の実践で高品質米生産!!

～ 最重点5項目の確実な実践で1等米90%! ～

1. 令和7年度エコ・5-5 運動の重点技術対策 太字の5項目は最重点 〃：新規・強化取組

重点技術対策	具体的な取り組み
変動気象に耐えられる「土づくり・元気な根づくり」	①作土深は15cmを確保しましょう(スタブルカルチ・“回り耕ち”等) ②堆肥・完熟発酵ケイフン(みらい有機)・ケイ酸質資材による土づくりを推進 ③稲わら秋すき込みと、もみ殻をほ場に還元しましょう
健苗育成と「良質茎の早期確保で安定収量を確保」!	① 深植えを是正し、健苗育成と移植前追肥 で活着・初期生育を促進しましょう ②完熟発酵ケイフン等による基肥窒素量の補填(砂質土壌等低地力ほ場)と 基肥量(P・K含む)の再点検 (粘土質土壌等の高地力ほ場)を行いましょ ③5月10日以降で5月20日を中心とした田植えの推進により、8月5日以降の出穂を目指しましょう(4月20日～5月上旬播種の推進) ④水の更新や夜間落水により、 中干し時期までのワキ防止と根の健全化 を図りましょう
適期中干しによる生育調節で「倒伏させない稲づくり」	①田植え後1か月を目途に茎数を確認して中干し・溝切りを実施しましょう ②本格的な 梅雨入り前に地耐力を確保 、過剰籾数を抑制しましょう ③“小ヒビ”中干しを基本とし、軟弱圃場では強め中干しでコンバイン収穫の地固めをしましょう
的確な生育診断と倒伏させない穂肥で「高温に強い稲づくり」	①葉色による穂肥診断とスマート技術の活用で、ほ場生育の均一化を目指しましょう ②高温に耐えられる後期栄養の増強で背白粒等の白未熟粒の発生を防ぎましょ ③8月の高温常態化に対応した慣行栽培の化学合成窒素使用量の見直しに伴い、 エコ栽培における穂肥化学合成窒素使用量が0.5kg/10a増施可 となります ③品質と良食味を兼ね備えた適正玄米タンパク質含量(コシヒカリ:5.5～6.0%)
高温気象下における「こしいぶきの高品質安定生産」	①完熟発酵ケイフン等による基肥窒素量の補填と生育の大型化 ②健苗育成と適正栽植株数(60株以上/坪)、深植えを是正し良質茎・穂数を確保ましょ ③生育量確保と除草剤処理層維持のため6月10日を目途に中干しを開始ましょ ④積極的穂肥による後期栄養確保上限補給で品質・収量を両立ましょ
こまめな水管理で「粒張りのよいおいしい米づくり」	①飽水管理又は間断かん水を徹底し、根の活力、葉色及び地耐力を確保ましょ ②台風・フェーン時は事前湛水し、水温上昇を抑えるこまめな水管理を行いましょ ③最終かん水日は出穂後25日以降とし早期落水をしないようにましょ
少ない農薬使用で効果的な雑草・病虫害防除	①初中期一発剤・中後期剤により水田内雑草を効果的に防除ましょ ②いもち病及び紋枯病は予防防除が基本です(GPオリゼリディア箱粒剤)
適期収穫と丁寧な選別で「全量」1等米“へ”	①収穫適期情報+②ほ場の籾黄化程度85～90%で収穫適期判断+③高温・フェーン時の過乾燥防止により、胴割粒の発生を防止ましょ(適期収穫・適正乾燥) ④選別網目1.9mmを使用し、整粒を確保して1等米に仕上げましょ ⑤収穫適期期間内に刈取りを行うために、ライスセンター等の共同乾燥施設を活用ましょ

2. 育苗作業手順

(1) コシヒカリの作業計画

作業目安：浸種10日間、催芽2日間、育苗20日間、田植え5月10日以降

作業内容	作業期間
浸種	4月8日開始～4月17日終了
催芽	4月18日開始～4月19日終了
播種	4月20日
育苗	4月20日～5月9日
田植え	5月10日～

【休眠情報】

「令和6年産のコシヒカリBL種子の休眠は、やや深いと推定される」作物研究センターより

3. 浸種 ～休眠性がやや深い為“ていねいな浸種・催芽”を心がけましょ～

(1) 適切な水温のめやす = 浸種温度12℃

品種	浸種温度×浸種日数	積算温度
コシヒカリBL	12℃×10日間	120℃
新之助・こしいぶき	12℃×8～9日間	100℃

ていねいに浸種されて十分に給水した種籾は「籾殻が透きとおったアメ色」になります

(2) 浸種初期の低水温(10℃未満)は、発芽揃いが悪くなります。浸種初期水温は10℃未満の低水温とならないよう注意してください
※エコ5-5の場合、他の薬剤消毒剤と一緒にしないでください。

(3) 浸種期間は酸素不足にならないよう十分な水量を確保し、水の更新を適切に行ってください。(浸種初日から1日おきに交換してください。) 水切りは浸種期間中に、2回以上行なってください。必ず、別の台(めざら等)に移して水切りしてください。
※モミガードC等(慣行栽培)の薬剤消毒済み種子籾は、消毒効果を高めるため浸種開始から4日間程度は水を入れ替えないでください。

(4) 浸種水槽に直射日光が当たらないよう屋内等で浸種して下さい。

4. 催芽

(1) 催芽温度 … 30℃(こまめに水温を確認ましょ)

(2) タフブロック剤の処理 … 褐条病・ばか苗病等の予防

※注意：種子籾は温湯消毒済みであっても、褐条病やばか苗病等の発生を防ぐために、必ずタフブロックによる消毒を行ってください。タフブロック処理した種子籾は、消毒効果を維持するため、水に浸けたり、洗ったりしないでください。

【使用方法】

農薬名	希釈倍率	使用時期	使用方法
タフブロック	200倍	催芽時	24時間種子浸漬

お問い合わせ先 ながおか営農センター ☎0120-915882 とちお営農センター ☎0120-915885

※令和7年度第1回エコ・5-5運動代表者会議が2月26日に開催され、承認されました。

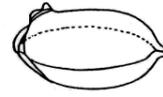
裏面もご覧ください。

催芽の状態を必ず確認しましょう！

(3) 催芽終了

- ① 催芽日数は1～2日を目安に、籾の発芽状態は鳩胸程度とし、発芽率が80%以上になったら終了し、陰干しします。
- ② コシヒカリ、五百万石等、例年休眠の深い品種は必ず催芽状態を確認してください。
- ③ 「こがねもち」「わたぼうし」「越淡麗」は発芽しやすいので、芽・根が伸び過ぎないように注意しましょう。

鳩胸程度の催芽



※催芽種子の冷水中での浸漬保管は厳禁です。(酸素欠乏で、根の発育が悪くなります！)

5. 育苗ハウスの準備

積雪の多い地区では、ハウス用地は早めに除雪して育苗ハウスを建て、ハウス内の地温上昇を図って下さい。
育苗ハウス周囲に小排水溝を掘って排水を良くし、育苗中のハウス内の滞水を防いで下さい。(ハウス内の排水が悪いと“ムレ苗”の原因になります。)

6. 消雪後の本田準備(田面水の排水)

根域の環境改善の為、枕地などで滞水している圃場では、可能な限り小溝を切って表面排水に努め、田面の乾燥を早めてください。



【参考】H29 年度宮内地域品質向上プロジェクト「砂利採取後排水不良ほ場の排水対策」
実証圃の本田準備排水状況 (H29 JA 越後ながおか、六日市)

7. エコ・5-5 運動遵守事項

- (1) 『令和7年度エコ・5-5 運動「肥料・農薬使用基準」(栃尾・山古志地区)』を必ず遵守して下さい。基準を満たせない場合は「エコ・5-5 米」として販売が出来ないため、慣行栽培米としての扱いになりますので注意願います。
- (2) JA 育苗センターで播種した苗は全て「箱処理剤施用済み」ですので注意して下さい。
- (3) 作付け前(前年収穫後から)の圃場内に、除草剂等農薬は一切使用できません。
- (4) エコ・5-5 コシヒカリは選別網目1.9mmが要件となっています。
- (5) 「エコ・5-5 圃場看板」を、必ず設置してください。
3月末頃に看板を配布します。**4月20日までに設置をお願いします。**
- (6) 圃場設置看板の素材変更について
昨年度、看板設置後の強風などによる紛失などが多くあったため、今年度は耐久性のさらに強いものへ変更します。
設置方法については生産者の方より粘着テープなどで補強等いただくなどご協力をお願いいたします。

令和7年度エコ・5-5 運動「肥料・農薬 使用基準」【栃尾・山古志地区】

農薬は、各剤1つの剤型のみ使用できます。

●=使用可能(重点品目) ○=使用可能 ×=使用不可 ____=新規

	農薬・肥料名	コシヒカリ	その他
育苗箱の消毒	イチバン	○	○
種子消毒(催芽時)	タフブロック	●	●
水田初期病害虫防除	GP オリゼリディア箱粒剤	●	●
水田 除草剤	初期剤 ソルネット 1 キロ粒剤または エリジャン(乳剤・ジャンボ)	○	×
	初中期一発剤 カウンスルエナジ-(1 キロ粒剤・ジャンボ・フロアブル)	●	●
	中後期剤 クリンチャー(1 キロ粒剤・EW・ジャンボ) クリンチャーバス ME 液剤 バサグラン(粒剤・液剤)	○	×
		※1	×
害虫防除(共同防除)	スタークル(液剤 10・粒剤・豆つぶ)	●	●
いもち病防除	フジワン (粒剤・1 キロ粒剤・ハック・乳剤)	×	×
	フジワンモンカット粒剤	×	×
紋枯病防除	モンカット粒剤・フロアブル	×	×
紋枯病防除	バリダシン(液剤 5・粉剤 DL・エアー)	○	○
いもち病防除	ブラシン(フロアブル・粉剤 DL)	×	○
	カスミン液剤	○	○
稲こうじ・墨黒穂病防除	ドイツボルドーA または Zボルドー(粉剤 DL・水和剤)	○	○

※1「クリンチャーバス ME 液剤」使用の場合は、クリンチャー及びバサグランの使用はできませんので
ご注意下さい。

※ 農薬の使用にあたっては登録内容を遵守してください。

育 苗	「稚苗苗代配合」	○	○
	「ホーネンス培土1号」、「ホーネンス培土1号 Si」、 「くみあい液肥2号」、「べんとう肥」	●	●
土づくり	完熟発酵ケイフン(みやぎ有機)、牛ふん、豚ふん、みつパワ ニュー-米スター、ようりんケイカル、マルチサポート Fe、農力アップ等	●	●
基 肥	「越後の輝き有機 50 元肥」 または 「フレーバーペースト 734」	●	●
	味好2号、フジミペレット 731、みらい有機 831	○	○
全量基肥 肥 料	「越後の輝き有機 50 スーパー元肥」(早生用)、 「越後の輝き有機 50 スーパー元肥ロング」(コシヒカリ用)	●	●
中間追肥	ウォーターシカ、マルチサポート Fe、スーパーシカ、塩化加里 けい酸加里プレミア 34、ニュー-米スター、ファイト・アップ 等	○	○
穂 肥	「けい酸入りエコ・5-5 専用穂肥」	●	●
	味好2号、フジミペレット 731、フェザー-MAX、みらい有機 831	○	○

令和7年度の使用基準を事前にチェックするのじゃ!!



変動気象にも負けない根張りの良い元気な苗を作しましょう！ 安定収量を確保するために健苗育成による良質茎を早期確保しよう！

1. 播種

(1) 播種日

- ・コシヒカリは登熟初期の過高温による品質低下を避けるため、8月5日以降の出穂を目指しましょう。
- ・コシヒカリの出穂期が8月5日以降となるよう、田植日は5月10日以降とします。
- ・5月10日以降の田植えにあわせて、播種日は4月20日以降にしてください。
- ・高温気象に対するリスク分散や作業分散を図るため、5月20日頃の田植の場合、播種日は5月2日頃がめやすです。

※播種時期が遅いほど気温の上昇により葉令の進みが早くなるため育苗期間を短く計画しましょう。

(2) 播種量 ～ゆっくり丁寧に播種しましょう～

1箱当り乾籾140g以下(催芽籾175g以下)の薄撒き均播に努めましょう。
※五百万石、ゆきみらい等の大粒品種は1割増しで播種してください。



140g播種
(催芽籾で約170g)



(参考)170g播種
(催芽籾で約210g)



(参考)200g播種
(催芽籾で約250g)

(3) 播種前のかん水 (かん水時の弊害)

かん水不足	床土乾燥・発芽不揃い・籾の浮き上がり
水切り不足	積み重ねた下段の箱が過湿・酸欠をおこす

2. 育苗ハウスの管理

ハウス内が30℃を超えたら必ず換気！晴天時は急激に温度上昇するので注意！

(1) 播種後～緑化終了期まで：ハウス内温度は(日中)25～30℃、(夜間)15～25℃

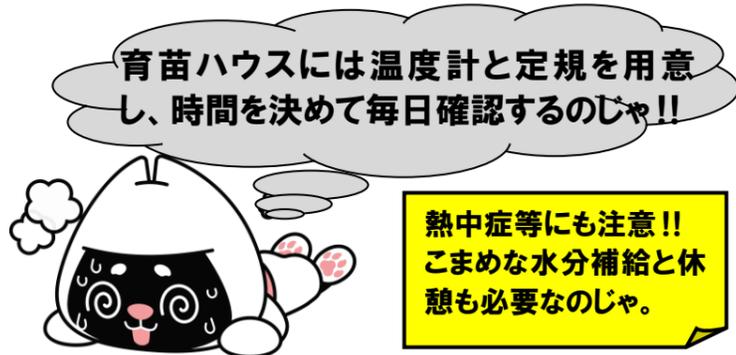
【出芽のめやす】



適度(0.5～1cm)



伸ばし過ぎ



(2) 緑化終了の判断と苗ヤケ防止：ハウス内温度は(日中)20～25℃、(夜間)15～18℃



茎の長さが3cmになったら育苗シートをとりまわす。
※こしいぶき、ゆきみらい、あきだわらは苗丈が伸びづらいので緑化を1日程度長めにしておき、苗丈を確保します。

“高温・高日射により苗ヤケの心配で迷った時は被覆資材をはぎまわす！”

※特に、年数経過により劣化した被覆資材や、ハウス天幕を新品にした年は、苗ヤケに注意！

(3) 硬化期の温度管理と水管理

期間(目安)	12～13日間
管理	①前半はこまめな温度管理、後半は霜や強風に注意し徐々に外気になります。 ②1日1回午前10時頃迄、後半は1日2回昼頃までにかん水しましょう。 ★夕方かん水すると育苗箱の床土温度が下がり、根張りが悪くなります。 午後3時以降のかん水は避けましょう！
温度	日中 …15～20℃ 夜間 …10℃以上

※注意※：プール育苗では気温が高いと水温が上昇して徒長しやすいので、換気に十分留意しましょう。緑化が終了し、湛水した後は原則として昼夜ともハウスのサイドビニールを開放しましょう。

(4) 田植え前の追肥 (苗の老化防止と田植え後の活着促進)

- ①専用肥料(何れか1資材)…「べんとう肥」360g/10a(18～23箱)を田植え4～5日前に散布します。または、「くみあい液肥2号」を270g/10a(18～23箱)をかん水。
※くみあい液肥2号は肥料ヤケを防ぐために、追肥は夕方に行い、その後、十分にかん水して下さい。

3. 本田の準備

- (1) 表面排水・・・圃場排水に努め、田を乾かしましょう。⇒ 移植後の活着が良くなります！
- (2) 均平化・・・高低差のある圃場は、整地キャリアなどで均平化に努めましょう。
- (3) 畦塗り・・・畦からの漏水を防止しましょう。特に、ネズミ穴に注意！
- (4) 農道・畦畔に除草剤を使用する際は、薬剤の使用基準を守り、丁寧に散布してください。(エコ・5-5運動「肥料・農薬使用基準」を必ず遵守してください。)

4. エコ・5-5栽培 基肥使用基準

(1)【分施肥体系の基肥使用基準】

10a 当たりの上限となる施用量

	越後の輝き 有機50元肥 (N-P-K:10-13-10)	フレーバー ペースト734 (7-3-4)
	コシヒカリ・こしいぶき・こがねもち・五百万石 等	30kg
「わたぼうし」のみ	47kg	67kg

(2)【全量基肥施肥の使用基準】 10a 当たりの上限となる施用量

	越後の輝き 有機50ス・パ・元肥 (12-6-5)	越後の輝き 有機50ス・パ・元肥ロング (12-6-5)
	コシヒカリ・こしいぶき・こがねもち・五百万石 等	47kg (早生品種用)
「わたぼうし」のみ	64kg	—

※冷水がかかる圃場はリン酸を成分量で7kg/10a施用をおすすめします

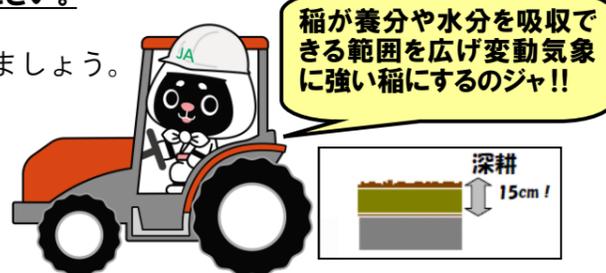
5. 土づくり・耕起

- (1) 耕起では作土深15cmを確保し、根張り改善を図りましょう(回り耕ち、スタブルカルチ等)
- (2) 「完熟発酵ケイフン(みやぎ有機)」で地力アップを図りましょう！
・イセ有機の施用めやす：コシヒカリ3袋(45kg/10a)、こしいぶき5袋(75kg/10a)

◎特に砂質圃場等で地力が低く、例年倒伏が無い圃場では、耕起前に基肥を使用基準量上限まで散布し、さらに「完熟発酵ケイフン」(みやぎ有機)、または、基肥や穂肥に「味好2号」、「フジミペレット731」、「みらい有機831」での補完をしてください。

- (3) ケイ酸質資材の散布で高温に耐えられる稲体にしましょう。

- ① みつパワー：60～120kg/10a
- ② アイアン米スター：60～100kg/10a
- ③ ニュー米スター：30kg/10a
- ④ マルチサポートFe：40～60kg/10a
- ⑤ 農力アップ：60～100kg/10a



※ごま葉枯れ病発生圃場や下葉が枯れ上がる“秋落ち”水田では、特にケイ酸質肥料や含鉄土づくり肥料(みつパワー、マルチサポートFe、農力アップ等)を散布しましょう。

6. 田植え

- (1) 好天日に田植えをし、活着を早めましょう。
- (2) 田植時期…コシヒカリは5月10日以降田植えが、エコ5-5米の要件です。
※減収防止のため5月末までには田植えを終えましょう。
- (3) 栽植密度…コシヒカリ50株/坪(低地力で収量が少なく倒伏しない圃場は60株/坪)
こしいぶき等早生品種60株/坪以上
- (4) 植込本数…3～4本/株になるようツメを調整。※多苗植えは根が浅くなるので注意！
- (5) 植付深さ…2～3cm ※深植えすると活着・分けつの発生が遅れるので注意！
- (6) 箱施用剤の施用【長岡地区の全品種(わたぼうしを除く)】

適用害虫名	使用薬剤	使用量	使用方法	使用時期
イネドロオウムシ	ゼロカウント粒剤	※150g/箱	床土混和	は種前
イネドロオウムシ フタオビコヤガ			箱上散布	は種時(覆土前)～ 移植当日
ニカメイチュウ イネツトムシ				移植2日前～ 移植当日
イネミズゾウムシ幼虫 イネヒメハモグリバエ				移植当日

※JA育苗センター苗は箱処理済みですので、ご注意ください。

※「高密度は種」の場合の使用量は、50g～100g/箱。(使用時期、適用病害虫等を確認の上、使用して下さい)

お問い合わせ先：なごか営農センター TEL：0120-91-5882
なごか西営農センター TEL：0120-91-5883

【長岡地区のわたぼうし・新之助】

適用害虫名	使用薬剤	使用量	使用方法	使用時期
いもち病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバエ	GPオリゼリディア 箱粒剤	※150g/箱	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する。	緑化期～ 移植当日
もみ枯れ細菌苗、内類褐変苗 白葉枯病、穂枯れ(ごま葉枯病) ニカメイチュウ、イナゴ類 イネカラバエ、イセハモグリバエ フタオビコヤガ、イネツトムシ				移植3日前～ 移植当日 (高密度は種の場合は 移植3日前～移植当日)

※JA育苗センター苗は箱処理済みですので、ご注意ください。

※「高密度は種」の場合の使用量は、50g～100g/箱。(使用時期、適用病害虫等を確認の上、使用して下さい)

7. エコ5-5用水田除草剤

薬剤名		10a当たり 使用量	使用時期(農薬登録)
初期 剤	ソルネット1キロ粒剤	1kg	移植時～ルエ1葉期まで(但し移植後30日まで)、植代後～移植前7日まで
	エリジャン	乳剤 300ml ジャンボ 300g	移植直後～ルエ1葉期まで(但し移植後30日まで)、植代後～移植7日前まで 移植直後～ルエ1葉期まで(但し移植後30日まで)、植代後～移植前7日まで
一 発 剤	カウンシル	1キロ粒剤 1kg	移植時～ルエ3.5葉期(但し、移植後30日まで)
	エナジー	フロアブル 500ml ジャンボ 400g	

※昨年、刈残しがある圃場は落ち初対策として初期剤を田植え後に散布しましょう。

8. 公式LINEアカウントのお知らせ

「JAえちご中越 ながおか地域 営農情報」から最新の営農情報を送信しています。まだ、登録されていない方は、QRコードより登録をお願いいたします。

ご登録はこちらから!!



LINE「友だち登録」待っているのじゃ!!
～米の出荷はJAへよろしくお願いたします～



変動気象にも負けない根張りの良い元気な苗を作しましょう！ 安定収量を確保するために健苗育成による良質茎を早期確保しよう！

1. 播種

(1) 播種日

- ・コシヒカリは登熟初期の過高温による品質低下を避けるため、8月5日以降の出穂を目指しましょう。
- ・コシヒカリの出穂期が8月5日以降となるよう、田植日は5月10日以降とします。
- ・5月10日以降の田植えにあわせて、播種日は4月20日以降にしてください。
- ・高温気象に対するリスク分散や作業分散を図るため、5月20日頃の田植の場合、播種日は5月2日頃がめやすです。

※播種時期が遅いほど気温の上昇により葉令の進みが早くなるため育苗期間を短く計画しましょう。

(2) 播種量 ～ゆっくり丁寧に播種しましょう～

1箱当り乾籾140g以下(催芽籾175g以下)の薄撒き均播に努めましょう。

※五百万石、ゆきみらい等の大粒品種は1割増しで播種してください。



140g播種
(催芽籾で約170g)



(参考)170g播種
(催芽籾で約210g)



(参考)200g播種
(催芽籾で約250g)

(3) 播種前のかん水 (かん水時の弊害)

かん水不足	床土乾燥・発芽不揃い・籾の浮き上がり
水切り不足	積み重ねた下段の箱が過湿・酸欠をおこす

2. 育苗ハウスの管理

ハウス内が30℃を超えたら必ず換気！晴天時は急激に温度上昇するので注意！

(1) 播種後～緑化終了期まで：ハウス内温度は(日中)25～30℃、(夜間)15～25℃

【出芽のめやす】



適度(0.5～1cm)



伸ばし過ぎ



育苗ハウスには温度計と定規を用意し、時間を決めて毎日確認するのじゃ!!

熱中症等にも注意!!
こまめな水分補給と休憩も必要なのじゃ。

(2) 緑化終了の判断と苗ヤケ防止：ハウス内温度は(日中)20～25℃、(夜間)15～18℃



茎の長さが3cmになったら育苗シートをとりまわす。
※こしいぶき、ゆきみらい、あきだわらは苗丈が伸びづらいので緑化を1日程度長めにして苗丈を確保します。

“高温・高日射により苗ヤケの心配で迷った時は被覆資材をはぎまわす！”

※特に、年数経過により劣化した被覆資材や、ハウス天幕を新品にした年は、苗ヤケに注意！

(3) 硬化期の温度管理と水管理

期間(目安)	12～13日間
管理	①前半はこまめな温度管理、後半は霜や強風に注意し徐々に外気になります。 ②1日1回午前10時頃迄、後半は1日2回昼頃までにかん水しましょう。 ★夕方かん水すると育苗箱の床土温度が下がり、根張りが悪くなります。 午後3時以降のかん水は避けましょう！
温度	日中 …15～20℃ 夜間 …10℃以上

※注意※：プール育苗では気温が高いと水温が上昇して徒長しやすいので、換気に十分留意しましょう。緑化が終了し、湛水した後は原則として昼夜ともハウスのサイドビニールを開放しましょう。

(4) 田植え前の追肥 (苗の老化防止と田植え後の活着促進)

- ①専用肥料(何れか1資材)…「べんとう肥」360g/10a(18～23箱)を田植え4～5日前に散布します。または、「くみあい液肥2号」を270g/10a(18～23箱)をかん水。

※くみあい液肥2号は肥料ヤケを防ぐために、追肥は夕方に行い、その後、十分にかん水して下さい。

3. 本田の準備

- (1) 表面排水・・・圃場排水に努め、田を乾かしましょう。⇒ 移植後の活着が良くなります！
- (2) 均平化・・・高低差のある圃場は、整地キャリアなどで均平化に努めましょう。
- (3) 畦塗り・・・畦からの漏水を防止しましょう。特に、ネズミ穴に注意！
- (4) 農道・畦畔に除草剤を使用する際は、薬剤の使用基準を守り、丁寧に散布してください。(エコ・5-5運動「肥料・農薬使用基準」を必ず遵守してください。)

4. エコ・5-5栽培 基肥使用基準

(1)【分施肥体系の基肥使用基準】

10a 当たりの上限となる施用量

	越後の輝き 有機50元肥 (N-P-K:10-13-10)	フレーバー ペースト734 (7-3-4)
	コシヒカリ・こしいぶき・こがねもち・五百万石 等	30kg
「わたぼうし」のみ	47kg	67kg

(2)【全量基肥施肥の使用基準】 10a 当たりの上限となる施用量

	越後の輝き 有機50ス・パ・元肥 (12-6-5)	越後の輝き 有機50ス・パ・元肥ロング (12-6-5)
	コシヒカリ・こしいぶき・こがねもち・五百万石 等	47kg (早生品種用)
「わたぼうし」のみ	64kg	—

※冷水がかかる圃場はリン酸を成分量で7kg/10a 施用をおすすめします

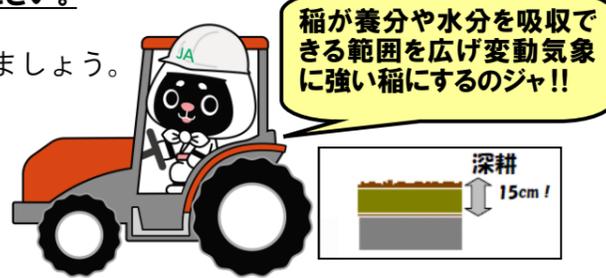
5. 土づくり・耕起

- (1) 耕起では作土深15cmを確保し、根張り改善を図りましょう(回り耕ち、スタブルカルチ等)
- (2) 「完熟発酵ケイフン(みやぎ有機)」で地力アップを図りましょう！
・イセ有機の施用めやす：コシヒカリ3袋(45kg/10a)、こしいぶき5袋(75kg/10a)

◎特に砂質圃場等で地力が低く、例年倒伏が無い圃場では、耕起前に基肥を使用基準量上限まで散布し、さらに「完熟発酵ケイフン」(みやぎ有機)、または、基肥や穂肥に「味好2号」、「フジミペレット731」、「みらい有機831」での補完をしてください。

- (3) ケイ酸質資材の散布で高温に耐えられる稲体にしましょう。

- ① みつパワー：60～120kg/10a
- ② アイアン米スター：60～100kg/10a
- ③ ニュー米スター：30kg/10a
- ④ マルチサポートFe：40～60kg/10a
- ⑤ 農力アップ：60～100kg/10a



※ごま葉枯れ病発生圃場や下葉が枯れ上がる“秋落ち”水田では、特にケイ酸質肥料や含鉄土づくり肥料(みつパワー、マルチサポートFe、農力アップ等)を散布しましょう。

6. 田植え

- (1) 好天日に田植えをし、活着を早めましょう。
- (2) 田植時期…コシヒカリは5月10日以降田植えが、エコ・5-5米の要件です。
※減収防止のため5月末までには田植えを終えましょう。
- (3) 栽植密度…コシヒカリ50株/坪(低地力で収量が少なく倒伏しない圃場は60株/坪)こしいぶき等早生品種60株/坪以上
- (4) 植込本数…3～4本/株になるようツメを調整。※多苗植えは根が浅くなるので注意！
- (5) 植付深さ…2～3cm ※深植えすると活着・分けつの発生が遅れるので注意！

7. エコ・5-5 用水田除草剤

薬剤名		10a当たり 使用量	使用時期(農業登録)	
初期 剤	ソルネット1キロ粒剤	1kg	移植時～ル・エ1葉期まで(但し移植後30日まで)、植代後～移植前7日まで	
	エリジャン	乳剤	300ml	移植直後～ル・エ1葉期まで(但し移植後30日まで)、植代後～移植前7日まで
ジャンボ		300g	移植直後～ル・エ1葉期まで(但し移植後30日まで)、植代後～移植前7日まで	
一 発 剤	カウンスル エナジー	1キロ粒剤	1kg	移植時～ル・エ3.5葉期(但し、移植後30日まで)
		フロアブル	500ml	
		ジャンボ	400g	移植直後～ル・エ3.5葉期(但し、移植後30日まで)

※エコ・5-5 栽培での注意
①ソルネット又はエリジャンは、何れか1つの剤型のみ使用できます
②「コシヒカリ以外の品種」は初期剤を使用できません。

(1) 箱施用剤の施用【栃尾・山古志地区のエコ全品種】

適用害虫名	使用薬剤	使用量	使用方法	使用時期
いもち病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	GP オリゼリディア 箱粒剤	※150g/箱	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	緑化期 ～ 移植当日 (高密度は種の場合は 移植3日前～移植当日)
もみ枯れ細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ニカメイチュウ イナゴ類 イネカラバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ イネツトムシ				移植3日前 ～ 移植当日

※JA育苗センター苗は箱処理済みですので、ご注意ください。

※「高密度は種」の場合の使用量は、50g～100g/箱。(使用時期、適用病害虫等を確認の上、使用して下さい)

8. 公式LINEアカウントのお知らせ

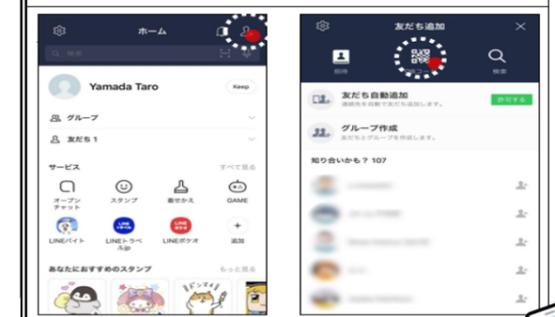
「JAえちご中越 ながおか地域 営農情報」から最新の営農情報を送信しています。まだ、登録されていない方は、QRコードより登録をお願いいたします。

ご登録はこちらから!!

★登録方法：【QRコードを読み取る】
LINEアプリの「ホーム」から
「友だち追加」>「QRコード」で
下のQRコードを読み取る



「ホーム」→「友だち追加」→「QRコード・読取」



LINE「友だち登録」待っているのジャ!!

～米の出荷はJAへよろしくお願いたします～

お問い合わせ先：ながおか営農センター TEL：0120-91-5882
とちお営農センター TEL：0120-91-5885

早期に良質茎を確保し、収量・品質を高めましょう！

1. 田植えのポイント

(1) 健苗育成・好天日田植・水管理の徹底に心がけ、初期生育の確保を行いましょ！

※6月に入っての田植えは十分な生育量が確保できず収量が低下します。
収量確保のためにも、5月末までには田植えを終えましょう。

◎エコ・5-5栽培コシヒカリは、5月10日以降の田植えが要件です！

※特認制度の申請をされる場合は、申請期間内【5月1日～5月8日】に申請書の提出をお願いします。詳しくは地区営農担当にご相談ください。

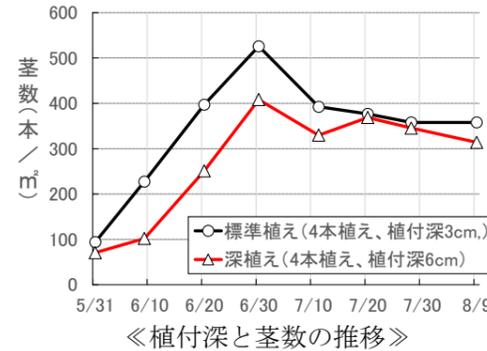
(2) 栽植株数はコシヒカリ50株/坪（茎数確保が難しい地域や6月田植えは60株/坪）、こしいぶき等の早生品種、多収性品種は60株以上/坪が目安です。

(3) 植込本数は、3～4本/株、植付深さは2～3cmとします。

◎多苗植え・深植えは厳禁！！

田植前には必ず、機械の植付深さ等を確認しましょう！

※多苗植えは茎が細く、根は浅く倒伏しやすくなります。
※深植えすると、新根や分げつの発生が抑制されます。



(4) 箱施用剤の施用 <<長岡地区>>

エコ・5-5での使用可能品種	適用害虫名	使用薬剤	使用量	使用方法	使用時期
わたぼうし新之助以外の品種	イネオムシ(フタホヒコヤカ) イネミスゾウムシ幼虫 イネトノイムシ コメテユウ等	ゼロカウント粒剤	50g/箱 ※高密度播種の場合は1kg/10a(50~100g/箱)	箱上均一散布	播種時覆土前～移植当日
わたぼうし新之助	いもち病等 イネオムシ(フタホヒコヤカ) イネミスゾウムシ イネトノイムシ コメテユウ、イコ類 イネハエ等	GP.オリゼリディア箱粒剤	50g/箱	箱上均一散布	緑化期～移植当日
			※高密度播種の場合は1kg/10a(50~100g/箱)		移植3日前～移植当日
			※1kg/10a	側条施用	移植時

※J A育苗センターやJ A硬化苗受託者から苗を購入した方は、移植前に箱施用剤の散布はしないでください。(箱施用剤散布済みの為)

※令和7年度より、エコ・5-5わたぼうし・新之助の箱粒剤が「Dr.オリゼフェルテラ粒剤」から「GPオリゼリディア箱粒剤」に変わっていますので、誤使用には十分ご注意ください。

※箱施用剤を育苗ハウス内で施用する際は、ハウス内に残留しないよう注意しましょう。

(5) 補植苗の放置はいもち病の発生源となるため、すみやかに処分して下さい。

2. 本田初期の水管理のポイント

(1) 保温的水管理【“やや深水管理”による発根・活着促進】

- ①田植え後は、苗が活着するまで3～4cmのやや深水としましょう。
- ②早朝にかん水し、日中は水温を高めて発根・活着を促進しましょう。

(2) 活着後の水管理【“やや深水管理”から“浅水管理”へ移行】

- ①浅水管理(水深2～3cm)により、分げつの発生を促しましょう。
- ②かん水は早朝に行い、日中は止め水により水温・地温の上昇と生育の均一化を図りましょう。
- ③特に低温時や強風時は、深水管理(4～5cm)で苗を保護しましょう。

(3) ワキ、表層剥離対策！！【根腐れによる生育抑制や除草剤の効果減少回避】

昨秋は豪雨や長雨による倒伏が多く発生し、さらには今春の停滞水や低温傾向による稲わら分解の遅れが懸念され、ワキや表層剥離などに注意が必要です。

ワキや表層剥離が見られる場合は、夜間落水して、早朝に再びかん水しましょう。

3. エコ・5-5用水田除草剤(移植水稻)

薬剤名		10a当使用量	使用時期(農薬登録)	
初期剤	※ソルネット1キロ粒剤	1kg	①植代後～移植前7日まで、②移植直後～ルビエ1葉期まで(但し移植後30日まで)、③移植時	
	※エリジャン	乳剤	300ml	①植代後～移植7日前まで、②移植直後～ルビエ1葉期まで(但し移植後30日まで)
ジャンボ		300g		
一発剤	カウンスルエナジー	1キロ粒剤	①移植時、②移植直後～ルビエ3.5葉期(但し、移植後30日まで)	
		フロアブル		500ml
		ジャンボ		400g

※初期除草剤を使用する場合は、河川への流入防止や環境への配慮から、移植前処理を避けて移植時または移植後に使用するようにしましょう。

※作付品種が前年と変更になる場合、初期剤(ソルネット又はエリジャン)を散布し、前年秋の落下糞による混種を防止しましょう！(特にうるち⇒もちへの変更では必ず実施してください。)

※エコ・5-5栽培の「わたぼうし・新之助」には初期剤は使用できません。

《初期剤・一発剤散布時の注意事項》

★気温が高いと雑草の生育が早くなるので、除草剤の散布時期が遅れないようにしましょう。

粒剤	水深5cm程度で、散布後3～4日間はそのまに保ち(水を動かさない)、7日間の止水管理 ⇒その後は通常管理
フロアブルジャンボ	水深6cm程度で、散布後3～4日間はそのまに保ち(水を動かさない)、7日間の止水管理 ⇒その後は通常管理

※ 散布後4日以降に水が切れたら、静かに差し水を行いましょ。

※ エコ・5-5運動参加圃場では、栽培指針に基づいた施用を行いましょ。

★機械作業後は泥を落としてから道路へ出ましょ！

トラクター等での農作業の際は、田や畑から公道へ出る前に必ず土を落としてから走行するようお願いします。

やむを得ず道路に土を落としてしまった場合は速やかに清掃するなど道路利用者が安全に走行できるよう心がけましょ。ご協力をお願いします。



カウンスル® エナジー

効果的な使い方



【エコ・5-5 重点除草剤】

1. 散布は早めに行い、効果を上げましょう！

- 代かきと田植えの間は、5日以内にしましょう。
- 一発処理剤は、下記の時期に出来るだけ早く散布しましょう。
- 散布時の水深は浅い所(特に水口)でも下記の通りにしましょう。

カウンスルエナジー 処理時期の目安(移植水稻の場合)

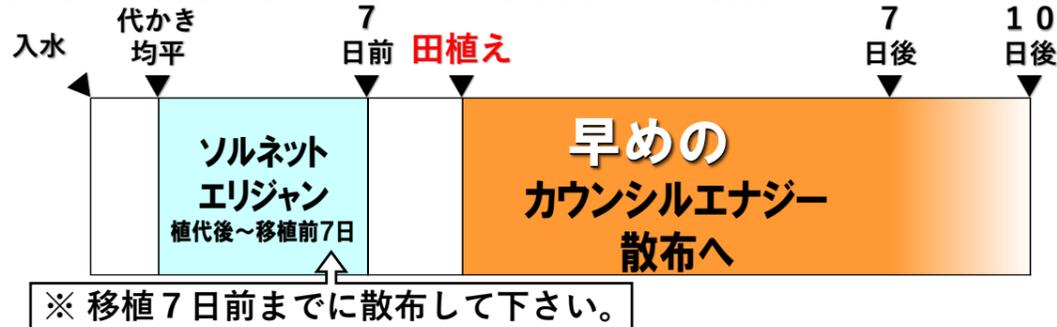
散布剤	代かき均平	田植え	7日後	10日後	散布時の水深目安
1キロ粒剤	5日以内	田植え	7日後		5cm
フロアブル剤			10日後		6cm
ジャンボ剤					6cm

※ 田植同時処理の場合 ⇒ 施用後、水深が5~6cmになるまで静かに入水して下さい。

～ 雑草で困った田んぼ ～

2. 初期剤をうまく活用しましょう(登録の範囲内で)

① 代かきから田植えまで7日以上となる田んぼの場合



② 田植え後に初期剤を処理する場合



3. 7日間の止水管理

～ 除草剤処理後、水田水がなくなるまで給水しない止水管理～

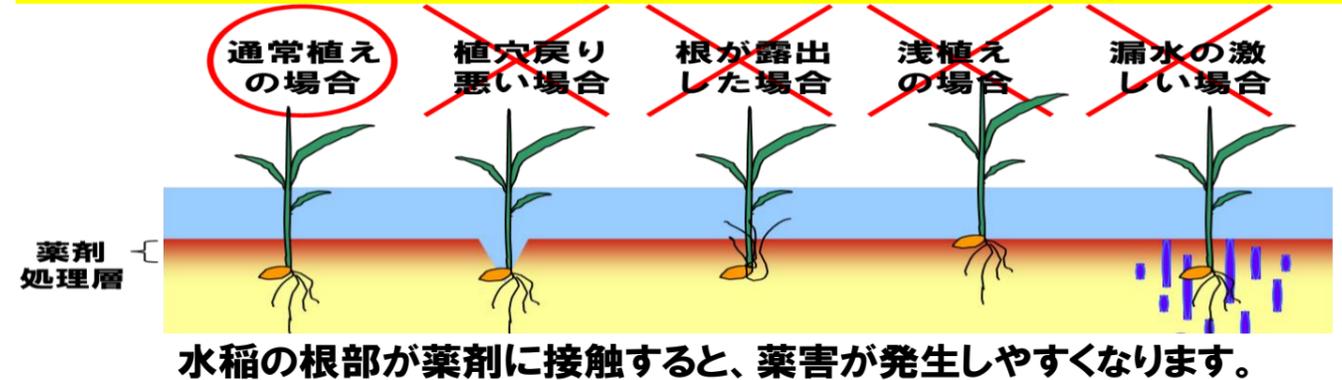
- 畦畔からの漏水(ネズミ等)・水尻側の漏水がないか確認して下さい。(畦の高さ、水尻)
- 入水する時は、湛水深をしっかりと確保して下さい。(粒剤5cm、フロアブル・ジャンボ6cm)
- 散布後3~4日間は湛水条件を保ち、7日間は止水管理をしましょう。
- 水田に水がなくなったら、静かに入水しましょう。

【止水管理の模式図】

出典:公益財団法人 日本植物調節剤研究協会
水稲用除草剤適正使用キャンペーン



4. 薬害が発生しないように心掛けましょう！



5. 極端な深植えは、ご注意ください。

植付け位置が深くなる程、埋没による「酸素不足」や、深い所は「地温が低い」為、活着が悪くなる傾向にあります。おすすめ植付け深度は「約3cm」ですが、圃場均平化や植付け状況を確認してから作業を行って下さい。

早期に良質茎を確保し、収量・品質を高めましょう！

1. 田植えのポイント

(1) 健苗育成・好天日田植・水管理の徹底に心がけ、初期生育の確保を行いましょ！

コシヒカリの田植え時期は、5月10日以降をおすすめします。

※6月に入っての田植えは十分な生育量が確保できず収量が低下します。

収量確保のためにも、5月末までには田植えを終えましょう。

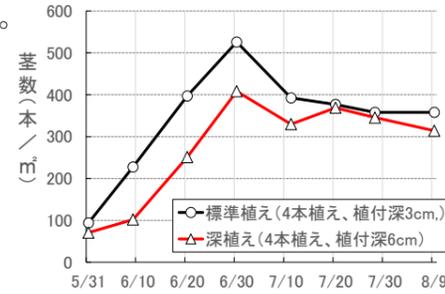
(2) 栽植株数は、コシヒカリ50株/坪（茎数確保が難しい地域や6月田植えは60株/坪）、こし いぶき等の早生品種、多収性品種は60株以上/坪が目安です。

(3) 植込本数は、3～4本/株、植付深さは2～3cmとします。

◎多苗植え・深植え厳禁！！

田植前には必ず、機械の植付深さ等を確認しましょう！

※多苗植えは茎が細く、根は浅く倒伏しやすくなります。
※深植えすると、新根や分げつの発生が抑制されます。



＜植付深と茎数の推移＞



標準植え(植付深 3 cm)

深植え(植付深 6 cm)

(4) 箱施用剤の施用 <<栃尾・山古志地区>>

適用害虫名	使用薬剤	使用量	使用方法	使用時期
いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	GP オリゼリディア 箱粒剤	50 g / 箱	育苗箱の苗の上から均一に 散布する。	緑化期～ 移植当日
もみ枯れ細菌苗、内穎褐変苗 白葉枯病、 穂枯れ(ごま葉枯病) ニカメイチュウ、イナゴ類 イネカラバエ、イネハモグリバエ フタオビコヤガ、イネツミ		50 g / 箱 ※高密度播種の場合 は1kg/10a (50～100g/箱)		移植3日前～ 移植当日

※J A 育苗センターやJ A 硬化苗受託者から苗を購入した方は、病害虫対策として「ファーストオリゼリディア箱粒剤」が施用済みですので、箱施用剤の散布はしないでください。

※箱施用剤を育苗ハウス内で施用する際は、ハウス内に残留しないよう注意しましょう。

(5) 補植苗の放置は、いもち病の発生源となるため、すみやかに処分してください。

2. 本田初期の水管理のポイント

山間地では雪解け水が冷たいので、特に漏水防止、保温的水管理に努めて下さい。

(1) 保温的水管理【“やや深水管理”による発根・活着促進】

- ①田植え後は、苗が活着するまで3～4cmのやや深水とします。
- ②早朝にかん水し、日中は水温を高めて発根・活着を促進しましょう。

(2) 活着後の水管理【“やや深水管理”から“浅水管理”へ移行】

- ①浅水管理（水深2～3cm）により、分げつの発生を促しましょう。
- ②かん水は早朝に行い、日中は止め水により水温・地温の上昇と生育の均一化を図りましょう。
- ③低温時や強風時は、深水管理（4～5cm）で苗を保護しましょう。

(3) ワキ、表層剥離対策！！【根腐れによる生育抑制や除草剤の効果減少回避】

昨年秋は豪雨や長雨による倒伏が多く発生し、さらには今春の停滞水や低温傾向による稲わら分解の遅れが懸念され、ワキや表層剥離などに注意が必要です。

ワキや表層剥離が見られる場合は、夜間落水して、早朝に再びかん水しましょう。

3. 水田除草剤（移植水稻）

薬剤名		10a当使用量	使用時期（農薬登録）
初期剤	※ソルネット1キログ粒剤	1kg	①植代後～移植前7日まで、②移植直後～ヒエ1葉期まで（但し移植後30日まで）、③移植時
	※エリジャン	乳剤 300ml ジャンボ 300g	①植代後～移植7日前まで、②移植直後～ヒエ1葉期まで（但し移植後30日まで）
一発剤	カウンスルエナジー	1キログ粒剤 1kg フロアブル 500ml ジャンボ 400g	①移植時、②移植直後～ヒエ3.5葉期（但し、移植後30日まで） ①移植直後～ヒエ3.5葉期（但し、移植後30日まで）

※初期除草剤を使用する場合は、河川への流入防止や環境への配慮から、移植前処理を避けて移植時または移植後に使用するようにしましょう。

※作付品種が前年と変更になる場合、初期剤（ソルネット又はエリジャン）を散布し、前年秋の落下粒による混種を防止しましょう！（特にうるち⇒もちへの変更では必ず実施してください。）

※エコ・5-5栽培の「コシヒカリ以外の品種」では、初期剤を使用できません。

＜初期剤・一発剤散布時の注意事項＞

★気温が高いと雑草の生育が早くなるので、除草剤の散布時期が遅れないようにしましょう。

粒剤	水深5cm程度で、散布後3～4日間はそのまに保ち（水を動かさない）、7日間の止水管理 ⇒その後は通常管理
フロアブル ジャンボ	水深6cm程度で、散布後3～4日間はそのまに保ち（水を動かさない）、7日間の止水管理 ⇒その後は通常管理

※ 散布後4日以降に水が切れたら、静かに差し水を行いましょ。

※ エコ・5-5運動参加圃場では、栽培指針に基づいた施用を行いましょ。

★機械作業後は泥を落としてから道路へ出ましょ！

トラクター等での農作業の際は、田や畑から公道へ出る前に必ず土を落としてから走行するようお願いします。

やむを得ず道路に土を落としてしまった場合は速やかに清掃するなど道路利用者が安全に走行できるよう心がけましょ。ご協力をお願いします。

★4月1日～5月31日は春の農作業安全特別運動期間となっております。

安全な農作業を心がけましょ。



カウンスル® エナジー

効果的な使い方



【エコ・5-5 重点除草剤】

1. 散布は早めに行い、効果を上げましょう！

- 代かきと田植えの間は、5日以内にしましょう。
- 一発処理剤は、下記の時期に出来るだけ早く散布しましょう。
- 散布時の水深は浅い所(特に水口)でも下記の通りにしましょう。

カウンスルエナジー 処理時期の目安(移植水稻の場合)

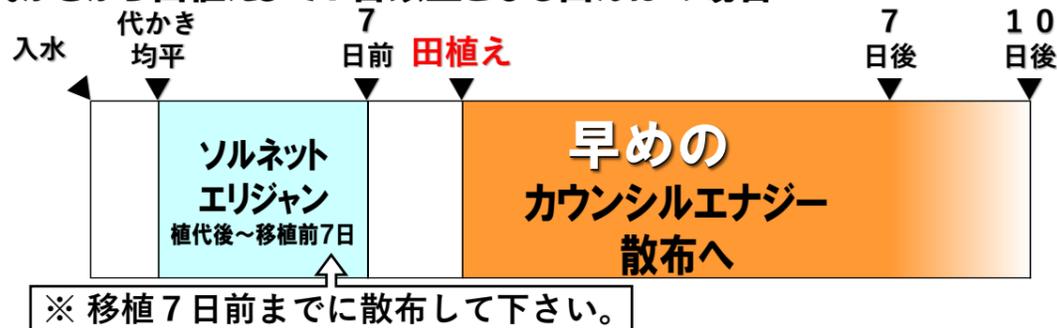
散布剤	代かき均平	田植え	7日後	10日後	散布時の水深目安
1キロ粒剤	5日以内	田植え	7日後		5cm
フロアブル剤			10日後		6cm
ジャンボ剤			10日後		6cm

※ 田植同時処理の場合 ⇒ 施用後、水深が5~6cmになるまで静かに入水して下さい。

～ 雑草で困った田んぼ ～

2. 初期剤をうまく活用しましょう(登録の範囲内で)

① 代かきから田植えまで7日以上となる田んぼの場合



② 田植え後に初期剤を処理する場合



3. 7日間の止水管理

～ 除草剤処理後、水田水がなくなるまで給水しない止水管理～

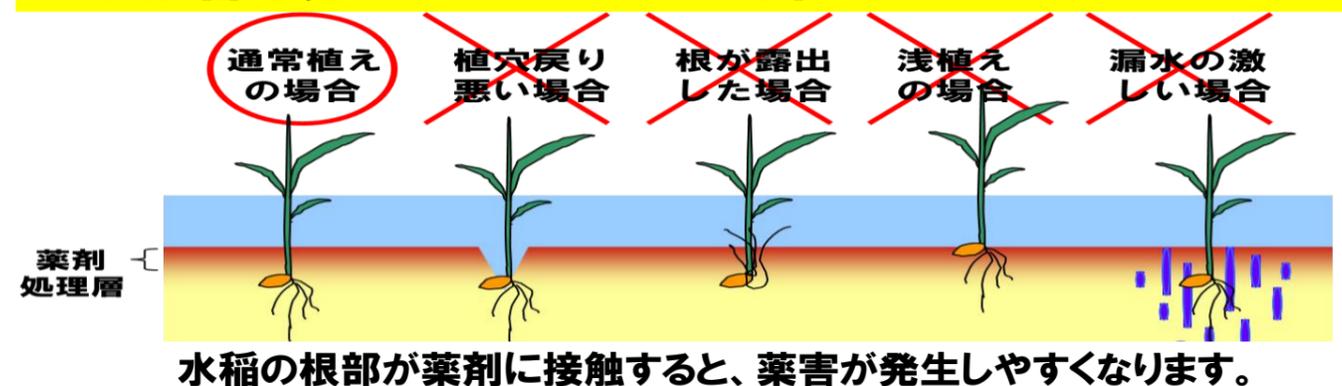
- 畦畔からの漏水(ネズミ等)・水尻側の漏水がないか確認して下さい。(畦の高さ、水尻)
- 入水する時は、湛水深をしっかりと確保して下さい。(粒剤5cm、フロアブル・ジャンボ6cm)
- 散布後3~4日間は湛水条件を保ち、7日間は止水管理をしましょう。
- 水田に水がなくなったら、静かに入水しましょう。

【止水管理の模式図】

出典:公益財団法人 日本植物調節剤研究協会
水稲用除草剤適正使用キャンペーン



4. 薬害が発生しないように心掛けましょう！



5. 極端な深植えは、ご注意ください。

植付け位置が深くなる程、埋没による「酸素不足」や、深い所は「地温が低い」為、活着が悪くなる傾向にあります。おすすめ植付け深度は「約3cm」ですが、圃場均平化や植付け状況を確認してから作業を行って下さい。

適期中干しを実施し、収量・品質を高めましょう！

1. 中干し・溝切りの効果

- (1) 過剰生育を抑制 ⇒ 有効茎を確保 ⇒ **品質向上!!**
- (2) 受光態勢の向上 ⇒ 倒伏軽減効果 ⇒ **品質向上!!**
- (3) 土壌への酸素供給により根を健全化します。
- (4) 秋のコンバイン収穫作業が可能な地耐力を確保できます。
- (5) 溝切りによりフェーン等の緊急時の迅速なかん水が可能となります。
- (6) 溝切りにより秋の長雨による停滞水の容易な排水が可能となります。

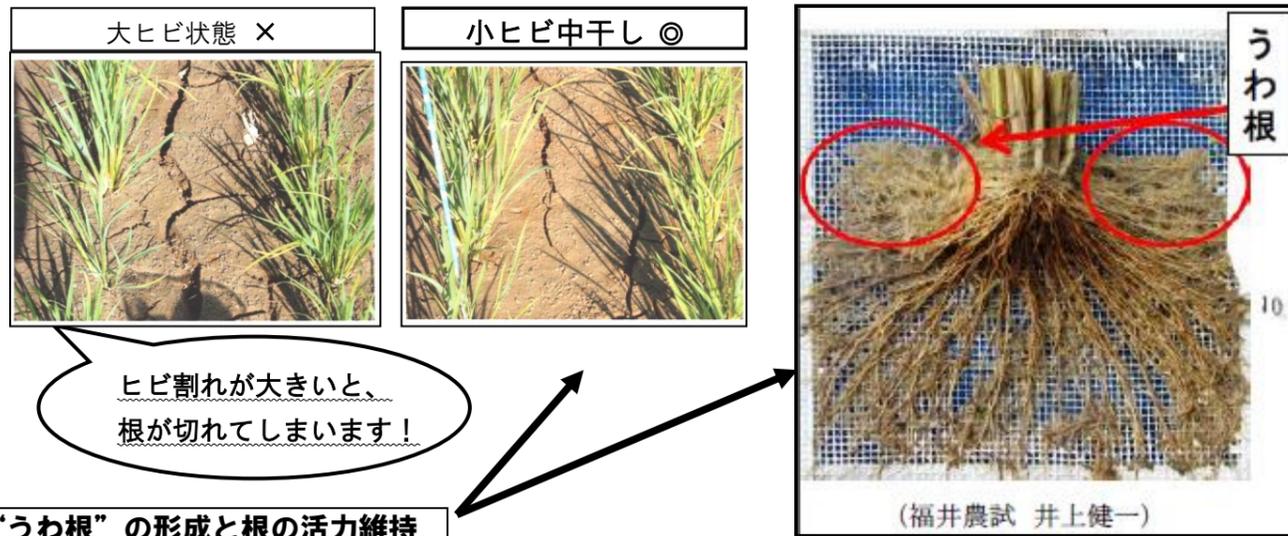


※中干しが不十分であると、生育が過剰傾向となって倒伏が助長されます。
中干しが不十分だと、総粒数が過剰傾向となり、乳心白等の未熟粒や玄米タンパク質含有率が高くなります。特に早生品種の大豆作付後圃場や基盤整備後圃場では生育過剰になりやすいため、早めに中干しを開始し、生育調節を行いましょう。



2. 中干し・溝切りの方法と点検

- (1) 中干しの程度は田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく程度まで行います。



“うわ根”の形成と根の活力維持

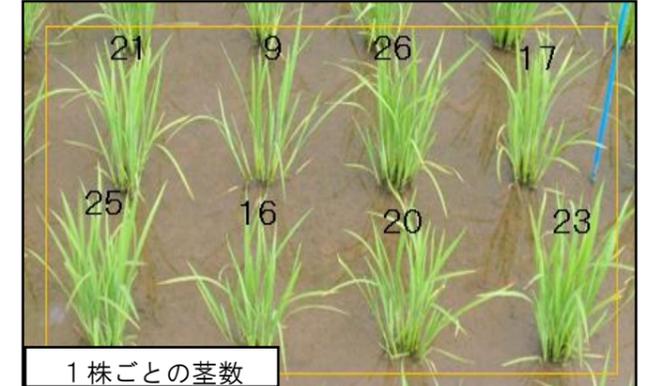
穂肥やケイ酸など肥料効果を十分に発揮させる為、“うわ根”を切断しない「小ヒビ中干し」を行いましょう。

- (2) 溝の間隔は2.5m、深さは10cm程度を確保し、溝の末端は必ず排水口につなげて下さい。
- (3) 毎年苦勞するほ場の軟らかい所は、溝の間隔を狭くして溝数を増やすと効果的です。
- (4) **中干し溝の額縁点検**（収穫時地耐力確保、高温時の短時間かん水、秋の長雨対策）
※ 天候不順な年ほど効果大！ 溝は、必ず排水口につなげましょう。

3. 中干し・溝切り時期のめやす



写真の状態では、すでに中干し開始時期を過ぎていきます（平均20本/株です）



＜過剰生育のブレーキは早めに!!＞

- (1) 田植え後30日をめやすに落水し中干しを開始しましょう。
田植時期が遅い場合、本格的な梅雨時期と重なるため、早めに中干しを開始しましょう。
- (2) 中干し程度は、田面に小ヒビが入る程度とし、大ヒビの入る強い中干しは避けましょう。
- (3) 中干し期間は2～3週間をめやすとしましょう。
※中干しが不十分であると、生育が過剰傾向となって倒伏・品質低下が助長されます。

【エコ・5-5 コシヒカリ】注) ()内は本/株

地区 (栽植密度)	移植期	目標穂数 本/m ²	中干し開始のめやす		中干し終了の晩限
			茎数	時期	
長岡地区 (50株/坪)	5月10～15日	340(22)	15本/株	6月10日	7月5日
	5月20日以降			6月15日	

【エコ・5-5 こしいぶき】注) ()内は本/株

地区 (栽植密度)	移植期	目標穂数 本/m ²	中干し開始のめやす		中干し終了の晩限
			茎数	時期	
長岡地区 (60株/坪)	5月5～10日	350(19)	15本/株	6月10日	6月末

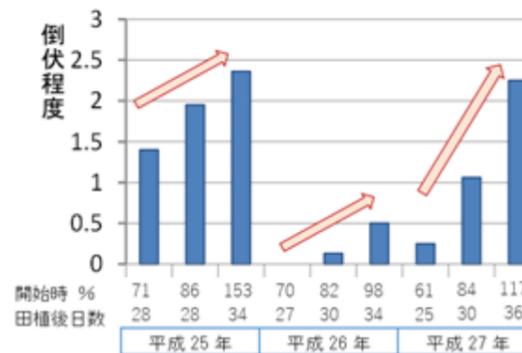
◎こしいぶきは生育量確保と除草剤処理層維持のため6月10日を目途に中干しを開始しましょう。

◎地力が高い、排水が悪い、例年倒伏が懸念されるほ場（重粘土壤等）の場合は、上記のめやすより2日程度早く中干しを開始し、早めの溝切りとやや強めの中干しにより粒数過剰の抑制と倒伏防止を図りましょう。

◎砂壤土等の水はけのよい低地力ほ場では、茎数が少ない段階で中干しに入ると穂数確保ができず少収となる場合があるので、目標穂数の8割を確保した段階で中干しに入りましょう。
【コシヒカリ:18本/株（50株植え）、こしいぶき:15～16本/株（60株植え）】

4. 中干しが遅れた場合の影響

中干し開始が遅くなるほど、成熟期の倒伏程度は大きくなります。



中干し開始時期が遅くなると倒伏が増加する

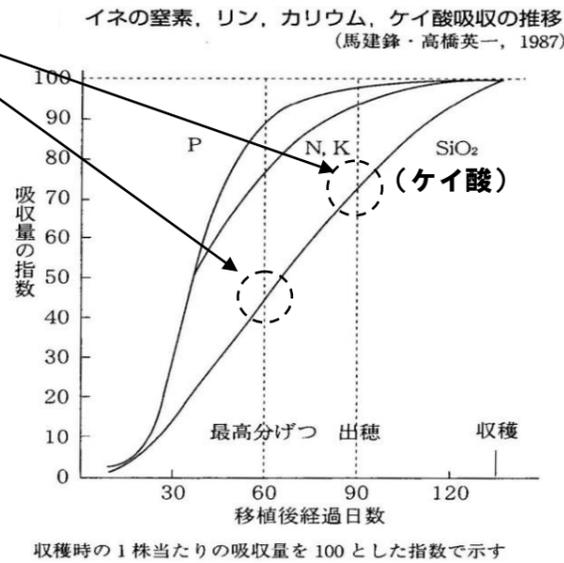
図 中干し開始時期と成熟期の倒伏（作物研究センター）

※有機50%肥料栽培、平成25～27年。開始時%は目標穂数（350本/m²）に対する中干し開始時の茎数の比率。田植後日数は中干し開始時

5. ケイ酸肥料の散布

- (1) ながおか地区の令和6年度土壌分析結果ではケイ酸が不足している状態にあります！
健全な稲体づくりに向けてケイ酸肥料を施用しましょう。

◎ケイ酸の吸収は生育前期よりも生育後期の方が多く、最高分けつ期頃で50%、出穂期以降も生育期間全体の30%近くが吸収されます。



- (2) ケイ酸肥料の効果

- ① 光合成を促進して、品質向上に役立ちます。
- ② 耐倒伏性の向上に役立ちます。
- ③ 籾が丈夫になることで、「ふ割れ」やカメムシ被害の軽減に役立ちます。
- ④ ごま葉枯れ病の抑制に役立ちます。
- ⑤ 高温下での過剰蒸散を防ぎ、水分ストレスによる白未熟粒や胴割粒の発生軽減に役立ちます。

- (3) 散布時期

6月末～7月上旬（幼穂形成期前）

※稲がケイ酸を吸収するには水が必要です。ケイ酸肥料を散布の際は、ほ場に水を入れましょう。

- (4) 主なケイ酸肥料【令和7年5月現在の税込価格】※表示価格は当用未収配達価格です。

けい酸加里プレミア 34



施用量：20～60 kg/10a
ケイ酸成分：34%
価 格：3,290 円
規 格：20 kg

加里、苦土、ほう素を含むケイ酸肥料

みつパワー



施用量：40～60 kg/10a
ケイ酸成分：25%
価 格：1,510 円
規 格：20 kg

鉄、マンガン等を含むケイ酸肥料

スーパーシリカプレミアム



施用量：20～40 kg/10a
ケイ酸成分：30%
価 格：1,930 円
規 格：20kg

ケイ酸に特化した低コスト肥料

ウォーターシリカ



施用量：15～30 kg/10a
ケイ酸成分：17%
価 格：4,900 円
規 格：15 kg

水口施用が可能な省力型肥料

ニュー米スター



施用量：15～30 kg/10a
ケイ酸成分：32%
価 格：1,670 円
規 格：15 kg

ケイ酸に特化した低コスト肥料

マルチサポートFe



施用量：20～40 kg/10a
ケイ酸成分：12%
価 格：1,879 円
規 格：20 kg

ケイ酸と鉄を主体とした総合微量要素肥料

6. 雑草対策

- (1) 取り残したヒエは、「クリンチャー」で除草しましょう。

※エコ・5-5運動参加圃場では、長岡地域全品種と栃尾・山古志地域コシヒカリのみクリンチャーを使用できます。

(1^{*}。粒剤・EW(乳剤)・ジャンボ剤のいずれかの剤型1回のみ使用できます。)

除草剤名	使用量		使用方法
クリンチャー	1キロ粒剤	1.5 kg/10a	移植後 25 日～ノビエ 5 葉期 但し、収穫 30 日前迄
	EW(乳剤)	100ml/10a	移植後 20 日～ノビエ 6 葉期 但し、収穫 30 日前迄
	ジャンボ	小包装 (パック) 30 個 (1.5kg)	移植後 25 日～ノビエ 5 葉期 但し、収穫 30 日前迄

- (2) 取り残したヒエ以外の雑草は、「バサグラン」で除草しましょう。

※エコ・5-5運動参加圃場では、全域・全品種でバサグランを使用できます。

除草剤名	使用量		使用時期
バサグラン	粒剤	3～4 kg/10a	移植後 15 日～収穫 45 日前迄 ※令和 6 年 10 月 30 日付で 使用時期が適用拡大されました。
	液剤	500～700ml/10a	

- (3) クリンチャーバスME液剤【長岡地区エコ・5-5運動取組圃場での注意】

「クリンチャーバス ME 液剤」使用の場合は、クリンチャー及びバサグラン単剤での使用はできません。

- (4) 畦畔除草（斑点米カメムシ対策）

今年も3ヶ月長期予報では気温が高い予報にあることから、雑草が繁茂しやすくカメムシが多く発生する可能性があります。

イネ科雑草や水田内雑草(特にイヌホタルイ)の管理に注意！！

除草剤を散布する場合は、畦畔散布に登録がある除草剤を使用し、農業ラベルに記載してある使用方法を守って散布して下さい！

【注意】農道・畦畔で除草剤を散布する際は、必ず風の無い時間帯に飛散防止ノズルを付けて散布し、飛散しないよう十分注意して下さい。

草刈り4つの効果

- ① エサをなくす
- ② すみかをなくす
- ③ 産卵場所をなくす
- ④ 薬剤をかかりやすくする

7. 病害防除

■長岡地区エコ・5-5運動取組圃場で使用できる「いもち病」・「紋枯病」防除農薬

薬剤名	適用病害	使用量	散布時期
フジワン モンカット粒剤	いもち病 紋枯病	3～4kg/10a	出穂 30～10 日前、但し、収穫 30 日前まで
フジワン粒剤 1キロ粒剤 パック 乳剤 水和剤	いもち病	3～5kg/10a	葉いもち：初発 7 日～10 日前、穂いもち：出穂 10～30 日前、但し、収穫 30 日前まで (パックは収穫 14 日前まで)
		1～1.5kg/10a	
		10～15 個/10a	
		1000 倍 60～150ℓ/10a	収穫 14 日前まで
モンカット粒剤	紋枯病	3～4kg/10a	出穂 30～10 日前、但し、14 日前まで

【使用方法】

・湛水状態（水深 3～5 cm）で均一に散布し、3～4 日は湛水状態を保つ。

・使用回数はいずれの薬剤も 1 回のみ。

※ 注意 ※

①フジワンモンカット粒剤を使用した場合は、フジワン剤及びモンカット粒剤は使用できません。

②わたぼうしは、フジワン剤のみ使用可能です。

お問い合わせ先 ながおか営農センター ☎0120-91-5882 ながおか西営農センター ☎0120-91-5883

適期中干しを実施し、収量・品質を高めましょう！

1. 中干し・溝切りの効果

- (1) 過剰生育を抑制 ⇒ 有効茎を確保 ⇒ **品質向上!!**
- (2) 受光態勢の向上 ⇒ 倒伏軽減効果 ⇒ **品質向上!!**
- (3) 土壌への酸素供給により根を健全化します。
- (4) 秋のコンバイン収穫作業が可能な地耐力を確保できます。
- (5) 溝切りによりフェーン等の緊急時の迅速なかん水が可能となります。
- (6) 溝切りにより秋の長雨による停滞水の容易な排水が可能となります。



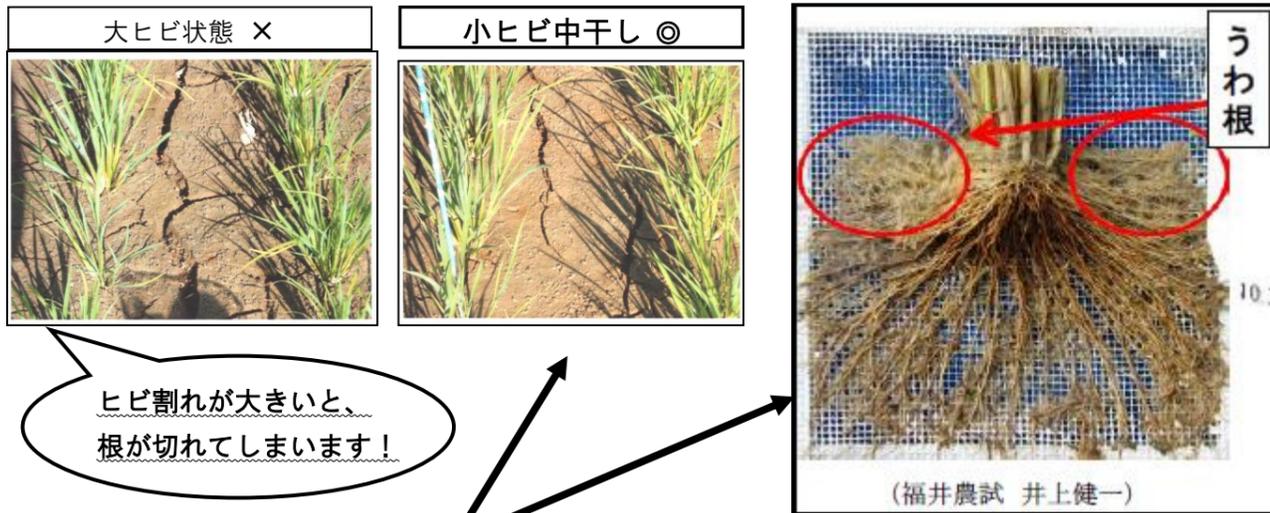
※中干しが不十分であると、生育が過剰傾向となって倒伏が助長されます。

中干しが不十分だと、総粒数が過剰傾向となり、乳心白等の未熟粒や玄米タンパク質含有率は高くなります。特に早生品種の大豆作付後圃場や基盤整備後圃場では生育過剰になりやすいため、早めに中干しを開始し、生育調節を行いましょう。



2. 中干し・溝切りの方法と点検

- (1) 中干しの程度は田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく程度まで行います。



“うわ根”の形成と根の活力維持

穂肥やケイ酸など肥料効果を十分に発揮させる為、“うわ根”を切断しない「小ヒビ中干し」を行いましょう。

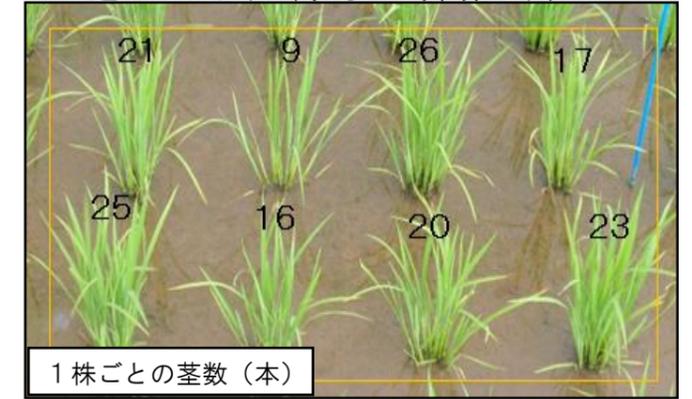
- (2) 溝の間隔は2.5m程度、深さは10cm程度を確保し、溝の末端は必ず排水口につなげます。
- (3) 毎年苦勞するほ場の軟らかい所は、溝の間隔を狭くして溝数を増やすと効果的です。
- (4) 中干し溝の額縁点検（収穫時地耐力確保、高温時の短時間かん水、秋の長雨対策）

※ 天候不順な年ほど効果大！ 溝は、必ず排水口につなげましょう。

3. 中干し・溝切り時期のめやす



写真の状態では、すでに中干し開始時期を過ぎています（平均20本/株です）



＜過剰生育のブレーキは早めに!!＞

- (1) 田植え後30日をめやすに落水し中干しを開始しましょう。
田植時期が遅い場合、本格的な梅雨時期と重なるため、早めに中干しを開始しましょう。
- (2) 中干し程度は、田面に小ヒビが入る程度とし、大ヒビの入る強い中干しは避けましょう。
- (3) 中干し期間は2～3週間が目安です。
- (4) 天水田等の用水確保が難しい圃場の場合は、営農センターにご相談ください。

【エコ・5-5 コシヒカリ】注) ()内は本/株

地区 (栽植密度)	移植期	目標穂数 本/m ²	中干し開始のめやす		中干し終了 の晩限
			茎数	時期	
栃尾・山古志地区 (60株/坪)	5月10～20日	320(18)	13本/株	6月10～15日	7月5日
	5月25日以降			6月20日	7月10日

【エコ・5-5 こしいぶき】注) ()内は本/株

地区 (栽植密度)	移植期	目標穂数 本/m ²	中干し開始のめやす		中干し終了 の晩限
			茎数	時期	
栃尾地区 (60株/坪)	5月5～10日	350(19)	15本/株	6月10日	6月末

◎こしいぶきは生育量確保と除草剤処理層維持のため6月10日を目途に中干しを開始しましょう。

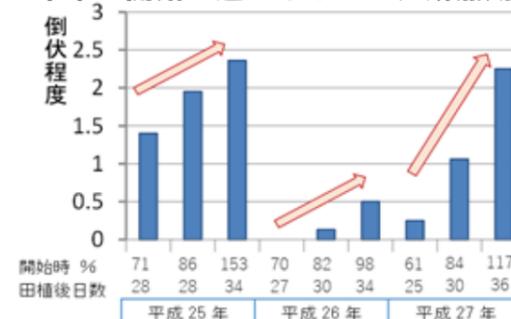
◎地力が高い、排水が悪い、例年倒伏が懸念されるほ場（重粘土壤等）の場合は、上記のめやすより2日程度早く中干しを開始し、早めの溝切りとやや強めの中干しにより粒数過剰の抑制と倒伏防止を図りましょう。

◎砂壤土等の水はけのよい低地力ほ場では、茎数が少ない段階で中干しに入ると穂数確保ができず少収となる場合があるので、目標穂数の8割を確保した段階で中干しに入りましょう。

【コシヒカリ:14～15本/株（50株植え）、こしいぶき:15～16本/株（60株植え）】

4. 中干しが遅れた場合の影響

中干し開始が遅くなるほど、成熟期の倒伏程度は大きくなります。



中干し開始時期が遅くなると倒伏が増加する

図 中干し開始時期と成熟期の倒伏（作物研究センター）

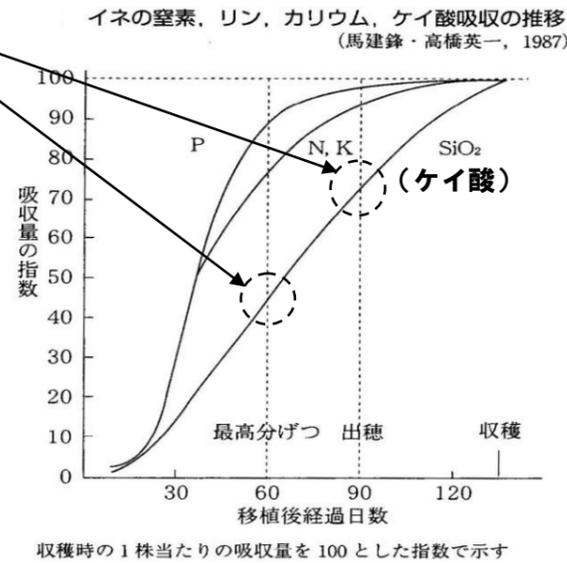
※有機50%肥料栽培、平成25～27年。開始時%は目標穂数（350本/m²）に対する中干し開始時の茎数の比率。田植後日数は中干し開始時

5. ケイ酸肥料の散布

(1) ながおか地区の令和6年度土壌分析結果ではケイ酸が不足している状態にあります！

健全な稲体づくりに向けてケイ酸肥料を施用しましょう。

◎ケイ酸の吸収は生育前期よりも生育後期の方が多く、最高分けつ期頃で50%、出穂期以降も生育期間全体の30%近くが吸収されます。



(2) ケイ酸肥料の効果

- ① 光合成を促進して、品質向上に役立ちます。
- ② 耐倒伏性の向上に役立ちます。
- ③ 籾が丈夫になることで、「ふ割れ」やカメムシ被害の軽減に役立ちます。
- ④ ごま葉枯れ病の抑制に役立ちます。
- ⑤ 高温下での過剰蒸散を防ぎ、水分ストレスによる白未熟粒や胴割粒の発生軽減に役立ちます。

(3) 散布時期

6月末～7月上旬（幼穂形成期前）

※稲がケイ酸を吸収するには水が必要です。ケイ酸肥料を散布の際は、ほ場に水を入れましょう。

(4) 主なケイ酸肥料【令和6年5月現在の税込価格】※表示価格は当用未収配達価格です。

けい酸加里プレミア 34



施用量：20～60 kg/10a
ケイ酸成分：34%
価格：3,290円
規格：20kg

加里、苦土、ほう素を含むケイ酸肥料

みつパワー



施用量：40～60 kg/10a
ケイ酸成分：25%
価格：1,510円
規格：20kg

鉄、マンガン等を含むケイ酸肥料

スーパーシリカプレミアム



施用量：20～40 kg/10a
ケイ酸成分：30%
価格：1,930円
規格：20kg

ケイ酸に特化した低コスト肥料

ウォーターシリカ



施用量：15～30 kg/10a
ケイ酸成分：17%
価格：4,900円
規格：15kg

水口施用が可能な省力型肥料

ニュー米スター



施用量：15～30 kg/10a
ケイ酸成分：32%
価格：1,670円
規格：15kg

ケイ酸に特化した低コスト肥料

マルチサポートFe



施用量：20～40 kg/10a
ケイ酸成分：12%
価格：1,879円
規格：20kg

ケイ酸と鉄を主体とした総合微量要素肥料

6. 雑草対策

(1) 「クリンチャー・バサグランの上手な使い方」(指導会等で配布)を参考にしましょう！

※栃尾・山古志地区のエコ・5-5運動参加圃場でクリンチャー（ヒエ剤）を使用する場合は、コシヒカリのみクリンチャーを使用できます。

(但し、「クリンチャーバス ME 液剤」使用の場合、クリンチャー単剤の使用はできません。)

※全地区・全品種のエコ・5-5運動参加圃場では、バサグランを使用できます。

(栃尾地区ではコシヒカリ以外の品種は「クリンチャーバス ME 液剤」は使用できません。)

(2) クリンチャーバスME液剤

【エコ・5-5運動参加圃場での注意】

① “クリンチャーバス ME 液剤”使用の場合は、クリンチャー及びバサグラン単剤での使用はできません。

② 栃尾地区ではコシヒカリ以外の品種は“クリンチャーバス ME 液剤”は使用できません。

適用雑草名	使用時期	10a当り使用量		使用方法
		薬量	希釈水量	
水田一年生雑草 ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、オモダカ、 クログワイ等	移植後15日～ ノビエ5葉期 但し、収穫 50日前まで	1000ml	70～ 100ℓ	落水散布又は ごく浅く湛水 して散布

【クリンチャーバスME液剤使用上のポイント】

- ① 散布する前に落水状態にして水の出入りをとめる。落水ができないところではヒタヒタ水の状態で散布して下さい。
- ② 散布後は少なくとも3日間（浅水処理では5日間）はそのままの状態を保ち、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水をしないで下さい。
- ③ 散布後に晴天の続く日を選んで散布して下さい。
- ④ 展着剤は加用しないで下さい。



草刈り4つの効果

- ① エサをなくす
- ② すみかをなくす
- ③ 産卵場所をなくす
- ④ 薬剤をかかりやすくする

(3) 畦畔除草（斑点米カメムシ対策）

今年も3ヶ月長期予報では気温が高い予報にあることから、雑草が繁茂しやすくカメムシが多く発生する可能性があります。

イネ科雑草や水田内雑草(特にイヌホタルイ)の管理に注意！！

除草剤を散布する場合は、畦畔散布に登録がある除草剤を使用し、農薬ラベルに記載してある使用方法を守って散布して下さい！

【注意】農道・畦畔で除草剤を散布する際は、必ず風の無い時間帯に飛散防止ノズルを付けて散布し、飛散しないよう十分注意して下さい。

ながおか地区の営農情報のLINE登録はこちら

LINEアプリの[ホーム]から[友だち追加]>[QRコード]

で右のQRコードを読み取る



お問い合わせ先

ながおか営農センター ☎0120-91-5882 とちお営農センター ☎0120-91-5885

📢 **幼穂形成期・出穂期は平年より2日程度早い見込み!** 📢

～ 穂肥を適期に施用し品質向上を図りましょう! ～

1. JA えちご中越 ながおか地区管内の生育状況 (6月19日現在)

- ① コシヒカリの生育は並み、草丈はやや長く、茎数少ない。葉色はやや濃い。
- ② こしいぶきの生育は早い、草丈は長く、茎数は並み。葉色はやや濃い。

	コシヒカリ				こしいぶき			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
宮内地域	38	303	8.2	39.7	38	389	9.2	43.3
長岡地域	38	303	8.4	39.9	44	491	9.2	42.4
上川西地域	36	321	8.2	42.0	38	333	9.1	47.3
日越地域	38	345	8.1	41.3	-	-	-	-
長岡地区全体	37	318	8.3	40.7	39	387	9.1	45.1
生育目標(6/19)	35	360	8.2	39.0	34	400	8.4	42.0
目標比較(%±)	106	88	0.1	1.7	115	97	0.7	3.1
前年(R6)	39	378	8.6	39.3	45	482	9.8	43.7

2. 出穂期の予想と穂肥時期の目安

(長岡・平場地域 6月20日現在 長岡農業普及指導センター)

	予想		穂肥時期の目安 (出穂前日数)			けい酸入りエコ・5-5専用穂肥	
	幼穂形成期	出穂期	1回目	2回目	3回目※1		
コシヒカリ	7月10日	8月2日	7月15~18日 (18~15)	7月23日 (10)	7月30日 (3)	上限施用量 25kg/10a	
こしいぶき	6月28日	7月21日	6月28日 (23)	7月7日 (14)	7月18日 (3)		
もち	こがねもち	7月4日	7月27日	7月9~12日 (18~15)	7月17日 (10)	7月24日 (3)	上限施用量 20kg/10a
	わたぼうし	6月25日	7月18日	6月26~28日 (22~20)	7月6~8日 (12~10)	7月15日 (3)	
酒米	五百万石	6月24日	7月17日	6月27日 (20)	7月5日 (12)	7月14日 (3)	上限施用量 25kg/10a
業務用・加工用	ゆきん子舞	6月27日	7月20日	6月25~27日 (25~23)	7月6日 (14)	7月17日 (3)	尿素 1回目:4.5~5.5kg 2回目:4.5~5.5kg 合計 9~11kg/10a
	ゆきみらい	6月22日	7月15日	6月22日 (23)	7月2日 (13)	7月12日 (3)	

※1 高温の年や、穂肥を2回施肥しても葉色が薄い場合、窒素上限施用量内で3回目の穂肥を出穂の3日前(はしりが見えるころ)までに施用してください。

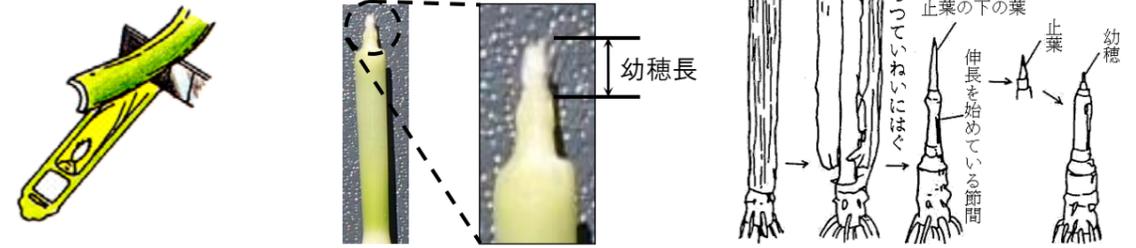
※ 早生品種は5月1日~5日稚苗移植、中晩生品種は5月10日~15日稚苗移植で予想しています。田植えが5日前後すると、出穂は2日程度前後します。今後の気象条件で予想は変わります。「越淡麗」「あきだわら」「新之助」については後日発表の予定です。

3. 幼穂長からの穂肥時期の把握について

幼穂形成期の把握方法 … 幼穂長が0.1cmの頃が幼穂形成期です。(出穂23日前頃)
幼穂形成期や発育ステージの把握は、ほ場による生育差が大きいので、出穂予想を参考にしつつ、必ず幼穂長を確認し、適期に穂肥を施用してください。

幼穂長	出穂前	生育ステージ	穂肥時期
1~2mm	23~25日	幼穂形成期	こしいぶき等早生品種の1回目
1cm程度	約18日	花粉母細胞分化期	コシヒカリ等中生品種の1回目
10cm程度	約10日	減数分裂期	2回目の穂肥時期

カッターによる幼穂確認



◎茎の基部をカッターで切るか、手で剥いて幼穂を確認してください。

4. 「こしいぶき」の穂肥について

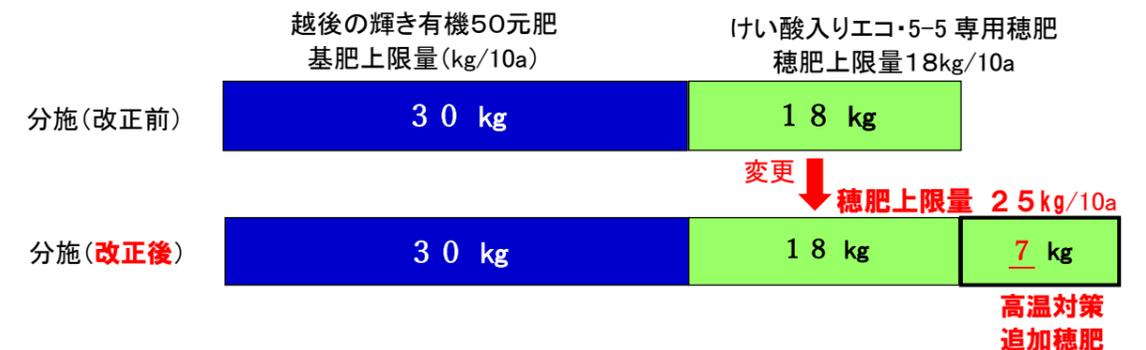
- ◎ 1回目穂肥は遅れない! ◎ 2回目は確実に実施する!
- ◎ 高温等により葉色が薄い場合は3回目穂肥を施用しましょう!
- ◎ 葉色 (SPAD値36、葉色カラスケール4.5) を維持! (8/10頃まで)

【出穂期が7月21日の場合】

＜こしいぶき穂肥施用時期＞
1回目: 6月28日頃 (出穂23日前)
2回目: 7月7日頃 (出穂14日前)
(3回目: 7月18日頃 (出穂3日前))

＜けい酸入りエコ・5-5専用穂肥施用量＞
1回目 8kg/10a
2回目 10kg/10a
※高温対策 3回目 7kg/10a

水稻慣行栽培基準の変更により高温対策として化学肥料使用量が増加されました。



※施用量等については、営農センターにご相談願います。

※大豆後・基盤整備後(盛土部)ほ場では、今後、窒素発現が予想されるため、原則、無施用が減肥するようにしましょう。

5. 「コシヒカリ」の穂肥について

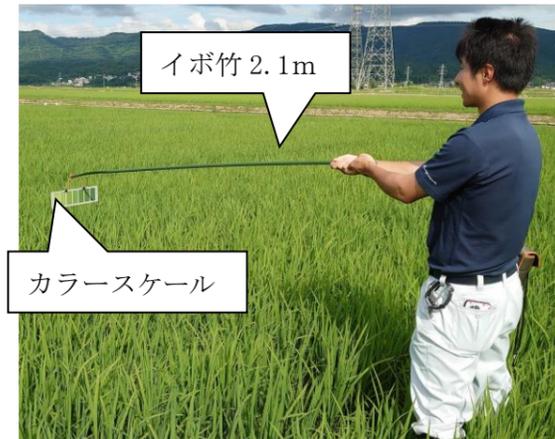
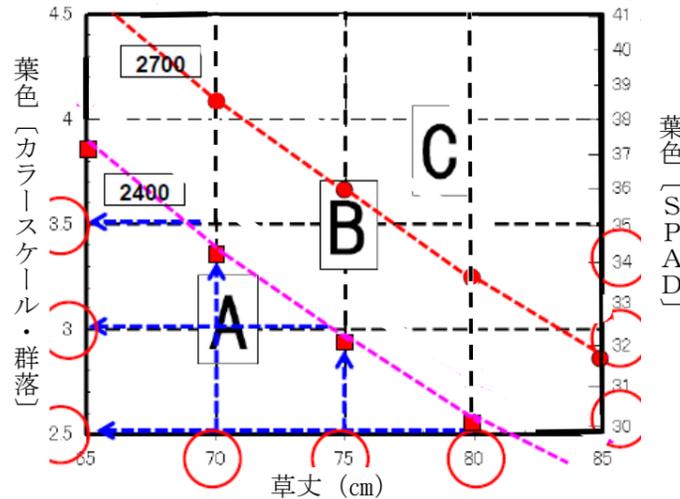
(1) コシヒカリ幼穂形成期（出穂23日前頃）の生育量（草丈と葉色の積値）による穂肥診断

① コシヒカリ 1 回目穂肥施用の診断とめやす

生育量 早見グラフ のエリア	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
A	○△倒伏が心配される場合は、穂肥時期を遅らせ、量を控えめに！	◎出穂18日前に基準量（けい酸入りエコ・5-5専用穂肥8kg/10a）	◎出穂18日前に基準量（けい酸入りエコ・5-5専用穂肥8kg/10a）
B	×施用しない	×施用しない	○出穂15日前に基準量
C	×施用しない	×施用しない	×△施用しない。ただし、異常高温の場合は、早急に基準量

② 幼穂形成期の生育量（草丈と葉色の積値）早見グラフ

ほ場の生育量はA、B、Cどのエリアですか？



カラースケールで葉色（群落）を測定しよう！

※出穂期にかけて低温・少照・多雨が見込まれる場合は、草丈が伸長して倒伏が大きくなる場合があることから、1回目穂肥時期を遅らせたり施用量を減じたり調整して下さい。

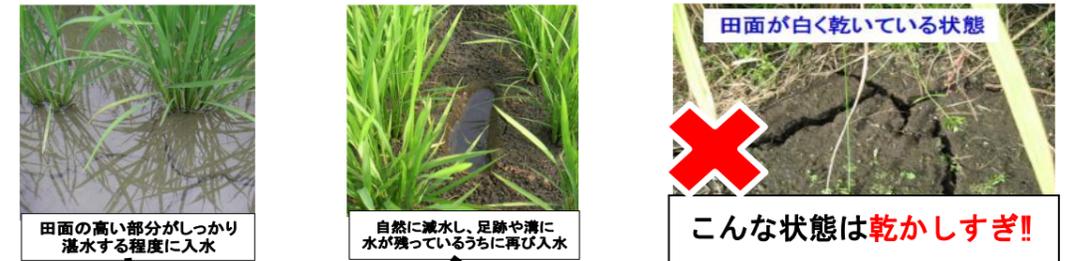
※高温・多照・少雨が予想される場合は、葉色がめやすよりやや濃い場合でも、出穂15日前に施用時期を遅らせて、**8kg/10a施用**して下さい。

(2) コシヒカリの2回目穂肥（出穂前10日頃）以降の施用について

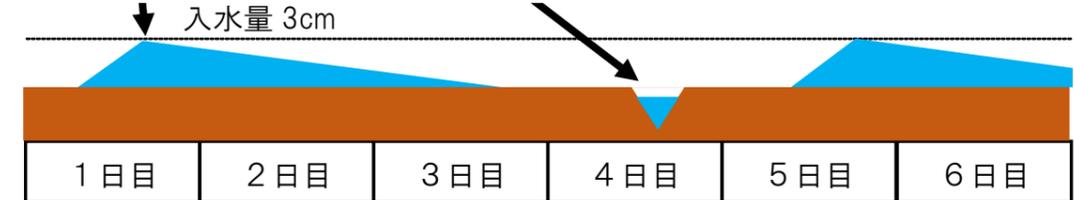
- ① 2回目穂肥は、後期栄養を維持するため、専用穂肥10kg/10aを確実に施用しましょう。
 - ② 高温条件下では、2回目の穂肥は確実に施用し、葉色の維持、登熟向上を図り、品質低下を防止しましょう。
 - ③ 出穂前10日頃の穂肥施用は、稈長の伸長に影響しないので、1回目の穂肥を施用できなかった場合においても、品質低下防止の観点から**確実に施用**しましょう。
 - ④ 1回目穂肥が出穂前18日より遅れた場合は、1回目穂肥の7日後に施用しましょう
 - ⑤ 高温の年や、穂肥を2回施肥しても葉色が薄い場合、窒素上限施用量内で3回目の穂肥を出穂の3日前（はしりが見えるころ）までに施用しましょう。
- ※今年度より水稻慣行栽培基準の変更により**高温対策**として化学肥料使用量が増加（エコの場合:化学窒素量上限3.5kg/10aまで）されました。【詳細は表面参照】

6. 中干し終了後の飽水管理

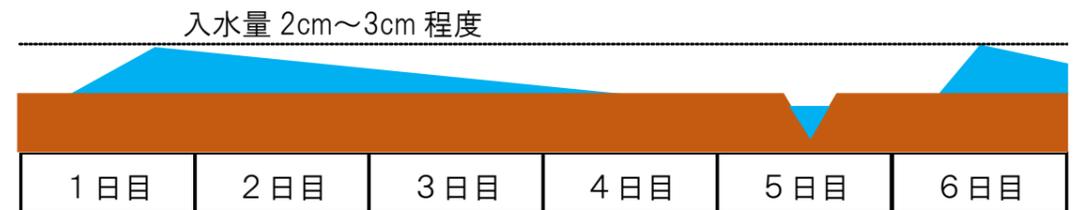
中干しは、出穂の1ヵ月前までには終了し、飽水管理へ移行してください。



(例1) 圃場の水持ち2~3日程度の場合の飽水管理



(例2) 排水不良圃場の場合の飽水管理（水持ち：5日以上）



※日数はあくまで目安です。地域の実情にあった水管理をお願いします。
※かけ流し等は行わず、限りある用水を地域全体に行き渡るようにしましょう。

<注意> 1回のかん水で3日以上湛水するような水持ちの良いほ場(水はけが悪い)では、湛水状態にせず、3日間湛水・3日間落水を繰り返す**間断かん水**とし、根の活力維持につとめてください。

☆間断かん水☆ 湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理法。(例：3湛3落等)

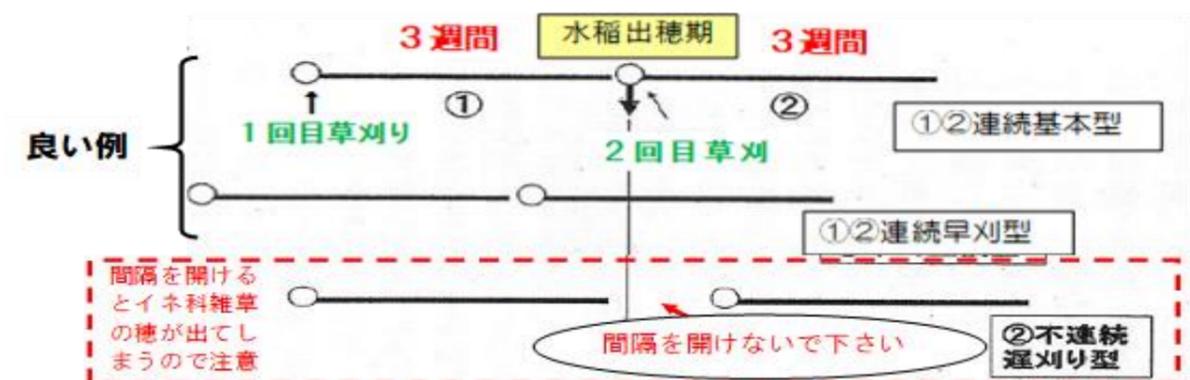
7. 雑草管理～斑点米カメムシの入り込むすきをなくす！～

2つのポイント！！

ポイント① 斑点米カメムシ類は稲穂よりも**イネ科雑草の穂の方が好きな傾向**があります。

ポイント② 草刈りによるイネ科雑草の**出穂抑制は最大で3週間です。**

水稻の出穂期前後各3週間に**イネ科雑草の穂を出させない雑草管理**でカメムシの発生密度を下げ、水田内への侵入と加害を防ぎましょう。



🔊 **幼穂形成期・出穂期は平年より2日程度早い見込み!** 🔊

～ 穂肥を適期に施用し品質向上を図りましょう! ～

1. JA えちご中越 ながおか地区管内の生育状況 (6月19日現在)

- ① 栃尾地域：草丈は並み、茎数は少ない、生育の進みは並み、葉色はやや濃い。
- ② 山古志地域：草丈は並み、茎数は少ない、生育の並み、葉色は並み。

	コシヒカリ			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
栃尾地区全体	37	229	7.6	39.2
山古志・太田	35	170	8.0	37.3
生育目標 (6/19)	37.0	300	7.8	38.0
目標比較 (%±)	101	76	▲0.2	12
前年 (R6)	40.0	325	8.3	39.4

2. 出穂期の予想と穂肥時期の目安

(6月19日現在 長岡農業普及指導センター)

		予 想		穂肥時期の目安 (出穂前日数)			施肥量
		幼穂形成期	出穂期	1回目	2回目	3回目※1	
コシヒカリ	栃尾平坦部	7月10日	8月2日	7月15~18日 (18~15)	7月23日 (10)	7月30日 (3)	けい酸入り エコ・5-5 専用穂肥 上限施用量 25kg/10a
	栃尾山間部	7月13日	8月5日	7月18~21日 (18~15)	7月26日 (10)	8月2日 (3)	
	山古志・ 栃尾半蔵金	7月15日	8月7日	7月20~23日 (18~15)	7月28日 (10)	8月4日 (3)	
こしいぶき	6月28日	7月21日	6月28日 (23)	7月7日 (14)	7月18日 (3)		
もち	こがねもち	7月4日	7月27日	7月9~12日 (18~15)	7月17日 (10)	7月24日 (3)	
酒米	五百万石	6月24日	7月17日	6月27日 (20)	7月5日 (12)	7月14日 (3)	
加工用米	ゆきみらい	6月22日	7月15日	6月22日 (23)	7月2日 (13)	7月12日 (3)	尿素 1回目:4.5~5.5kg 2回目:4.5~5.5kg 合計9~11kg/10a

※1 高温の年や、穂肥を2回施肥しても葉色が薄い場合、窒素上限施用量内で3回目の穂肥を出穂の3日前(はしりが見えるころ)までに施用してください。

※ 早生品種は5月1日~5日稚苗移植、中晩生品種は5月10日~15日稚苗移植で予想しています。

田植えが5日前後すると、出穂は2日程度前後します。今後の気象条件で予想は変わります。

※ コシヒカリの栃尾山間部、山古志・栃尾半蔵金はJAえちご中越で追加記載。

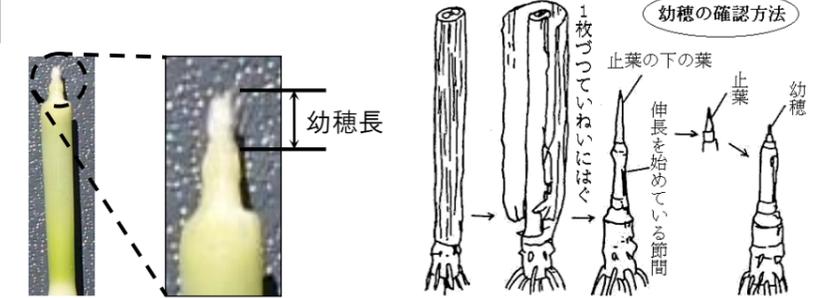
※ 新之助については後日発表の予定です。

3. 幼穂長からの穂肥時期の把握について

幼穂形成期や発育ステージの把握は、ほ場による生育差が大きいので、出穂予想を参考にしつつ、必ず幼穂長を確認し、適期に穂肥を施用してください。

幼穂長	出穂前	生育ステージ	穂肥時期
1~2mm	23~25日	幼穂形成期	こしいぶき等早生品種の1回目
1cm程度	約18日	花粉母細胞分化期	コシヒカリ等中生品種の1回目
10cm程度	約10日	減数分裂期	2回目の穂肥時期

カッターによる幼穂確認



◎茎の基部をカッターで切るか、手で剥いて幼穂を確認してください。

4. 「こしいぶき」の穂肥について

- ◎1回目穂肥は遅れない! ◎2回目は確実に実施する!
- ◎高温等により葉色が薄い場合は3回目穂肥を施用しましょう!
- ◎葉色 (SPAD値36、葉色カールスケール4.5) を維持! (8/10頃まで)

【出穂期が7月21日の場合】

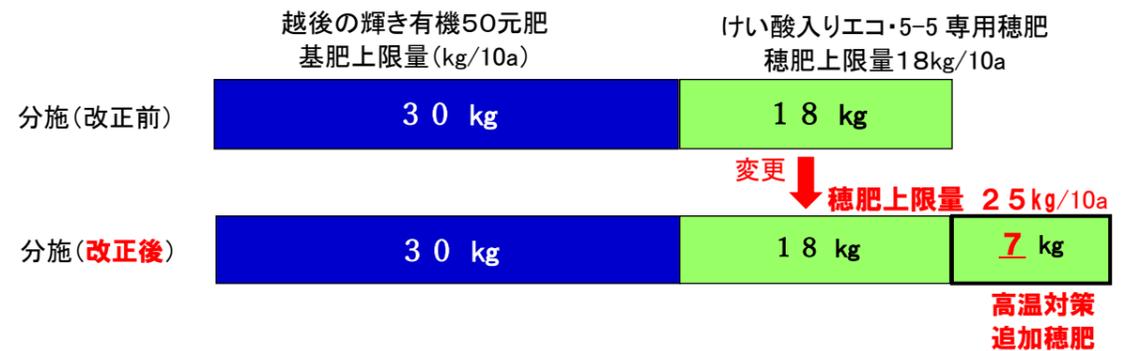
<こしいぶき穂肥施用時期>

- 1回目: 6月28日頃 (出穂23日前)
- 2回目: 7月7日頃 (出穂14日前)
- (3回目: 7月18日頃 (出穂3日前))

<けい酸入りエコ・5-5専用穂肥施用量>

- 1回目 8kg/10a
- 2回目 10kg/10a
- ※高温対策 3回目 7kg/10a

水稻慣行栽培基準の変更により高温対策として化学肥料使用量が増加されました。



※施用量等については、営農センターにご相談願います。

※大豆後・基盤整備後(盛土部)ほ場では、今後、窒素発現が予想されるため、原則、無施用か減肥するようにしましょう。

5. 「コシヒカリ」の穂肥

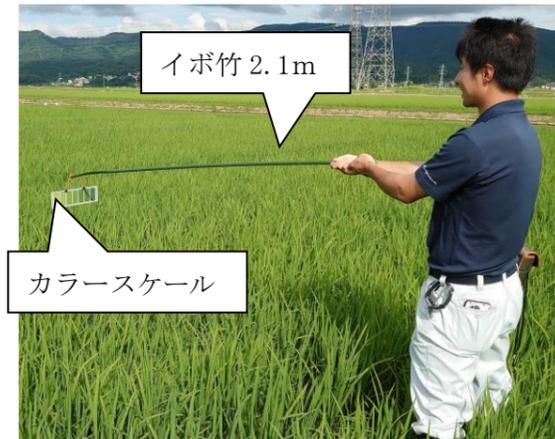
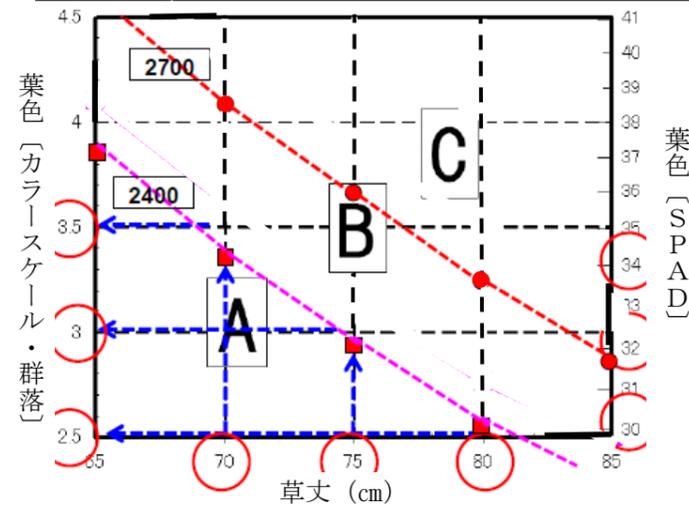
(1) コシヒカリ幼穂形成期（出穂23日前頃）の生育量（草丈と葉色の積値）による穂肥診断

①コシヒカリ1回目穂肥施用の診断とめやす

生育量 早見グラフ のエリア	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
A	○△倒伏が心配される場合は、穂肥時期を遅らせ、量を控えめに！	◎出穂18日前に基準量（けい酸入りエコ・5-5専用穂肥8kg/10a）	◎出穂18日前に基準量（けい酸入りエコ・5-5専用穂肥8kg/10a）
B	×施用しない	×施用しない	○出穂15日前に基準量
C	×施用しない	×施用しない	×△施用しない。ただし、異常高温の場合は、早急に基準量

②幼穂形成期の生育量（草丈と葉色の積値）早見グラフ

ほ場の生育量はA、B、Cどのエリアですか？



カラースケールで葉色（群落）を測定しよう！

※出穂期にかけて低温・少照・多雨が見込まれる場合は、草丈が伸長して倒伏が大きくなる場合があることから、1回目穂肥時期を遅らせたり施用量を減じたり調整して下さい。

※高温・多照・少雨が予想される場合は、葉色がめやすよりやや濃い場合でも、出穂15日前に施用時期を遅らせて、**8kg/10a施用**して下さい。

(2) コシヒカリの2回目穂肥（出穂前10日頃）以降の施用について

- ① **2回目穂肥は、後期栄養を維持するため、専用穂肥10kg/10aを確実に施用**しましょう。
- ② 高温条件下では、2回目の穂肥は確実に施用し、葉色の維持、登熟向上を図り、品質低下を防止しましょう。
- ③ **出穂前10日頃の穂肥施用は、稈長の伸長に影響しないので、1回目の穂肥を施用できなかった場合においても、品質低下防止の観点から確実に施用**しましょう。
- ④ **1回目穂肥が出穂前18日より遅れた場合は、1回目穂肥の7日後に施用**しましょう
- ⑤ 高温の年や、穂肥を2回施肥しても葉色が薄い場合、窒素上限施用量内で**3回目の穂肥を出穂の3日前（はしりが見えるころ）までに施用**しましょう。

※今年度より水稻慣行栽培基準の変更により**高温対策**として化学肥料使用量が増加（エコの場合:化学窒素量上限3.5kg/10aまで）されました。**【詳細は表面参照】**

6. 雑草対策 ～斑点米カメムシの入り込む隙を無くす！～

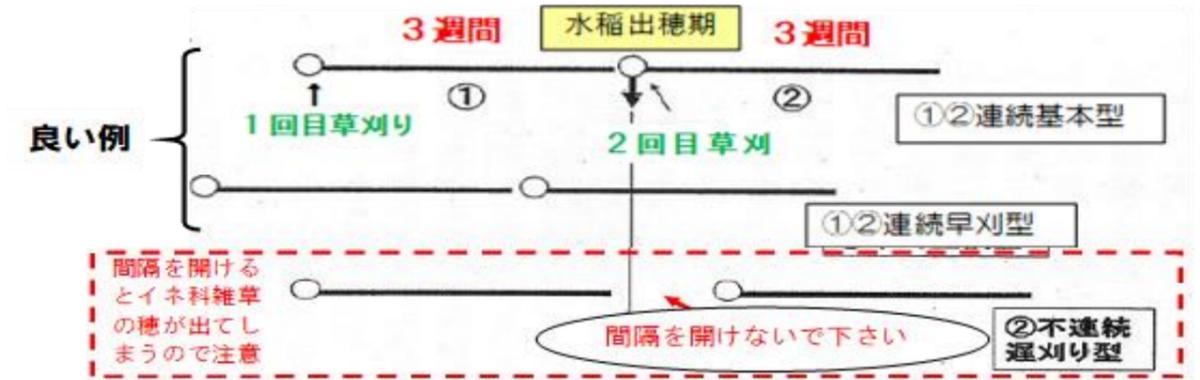
2つのポイント！！

●Check!

ポイント① 斑点米カメムシ類は稲穂よりもイネ科雑草の穂の方が好きな傾向があります。

ポイント② 草刈りによるイネ科雑草の出穂抑制は最大で3週間です。

水稻の出穂期前後各3週間にイネ科雑草の穂を出させない雑草管理でカメムシの発生密度を下げ、水田内への侵入と加害を防ぎましょう。

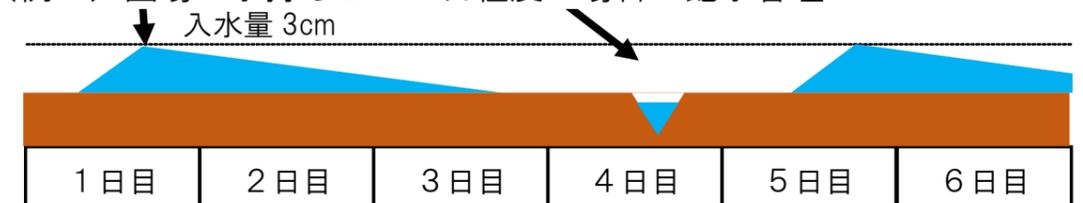


7. 中干し終了後の飽水管理

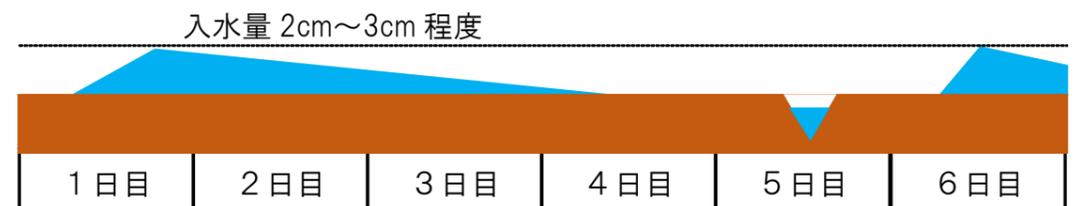
中干しは、出穂の1カ月前までには終了し、飽水管理へ移行して下さい。



(例1) 圃場の水持ち2～3日程度の場合の飽水管理



(例2) 排水不良圃場の場合の飽水管理（水持ち：5日以上）



<注意> 1回のかん水で3日以上湛水するような水持ちの良いほ場（水はけが悪い）では、湛水状態にせず、3日間湛水・3日間落水を繰り返す**間断かん水**とし、根の活力維持につとめてください。

☆間断かん水☆ 湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理法。（例：3湛3落 等）

飽水管理の継続で品質向上の総仕上げ！ 最終かん水は出穂後25日以降とし早期落水は避けましょう！

1. 登熟期の飽水管理

(1) 根の活力維持と穂肥の効果高める為、飽水管理を継続してください。

- ①飽水管理を行うことで、白未熟粒の発生を抑制し、整粒歩合を高められます(図1)。
- ②飽水管理は日中及び夜間の地温の上昇を抑えることができます(図2)。

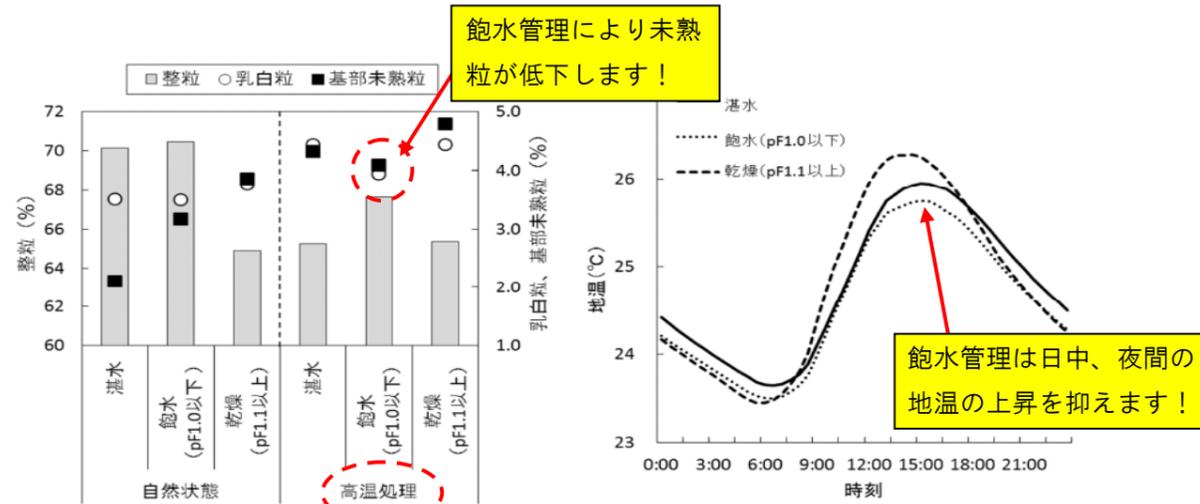


図1 登熟期の水管理と品質の関係 (平成25～26年)

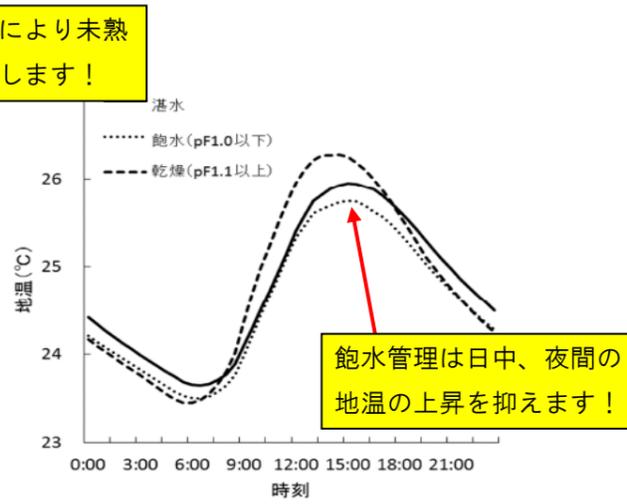


図2 登熟期の水管理と時間別地温の関係 (平成25～26年)

注) 出穂期10日前から25日後までの地温の平均を測定した。

(2) 飽水管理とは

【再確認!】 飽水管理とは?

☑️ 水尻を止めて入水し、田面の水が自然減水でなくなり、溝や足跡の底に水が溜まっている状態になったら再びかん水し、**土壌の湿潤状態を保つこと。**

※ **水を常に溜める「湛水状態」ではありません。**

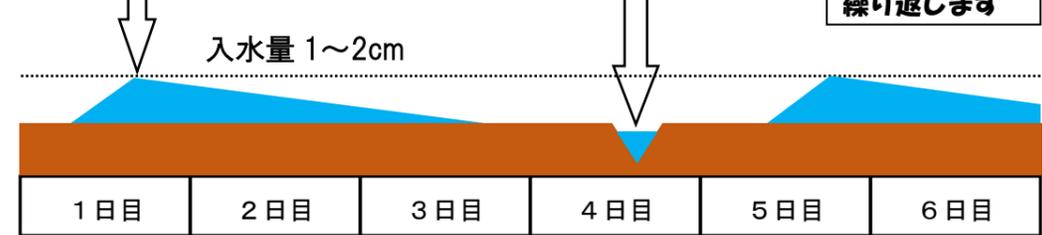
飽水管理 ⇒ **酸素と水を両方供給し、根の活力を維持しましょう。**

(3) 異常高温、強風・フェーンが予想される場合には事前に湛水し、稲体からの急激な蒸散による障害の発生防止に努め、異常高温・フェーン時は水温上昇を抑えるこまめな水管理をしながら品質の高温障害を防ぎましょう。

(4) 飽水管理のイメージ(例) ～ほ場の水持ちが2～3日程度の場合～
特に、高温で連続無降雨の時は過度の土壌乾燥に注意してください(大ヒビ厳禁)
➔ **根を切断し、出穂期以降の葉色低下と品質低下を招きます。**



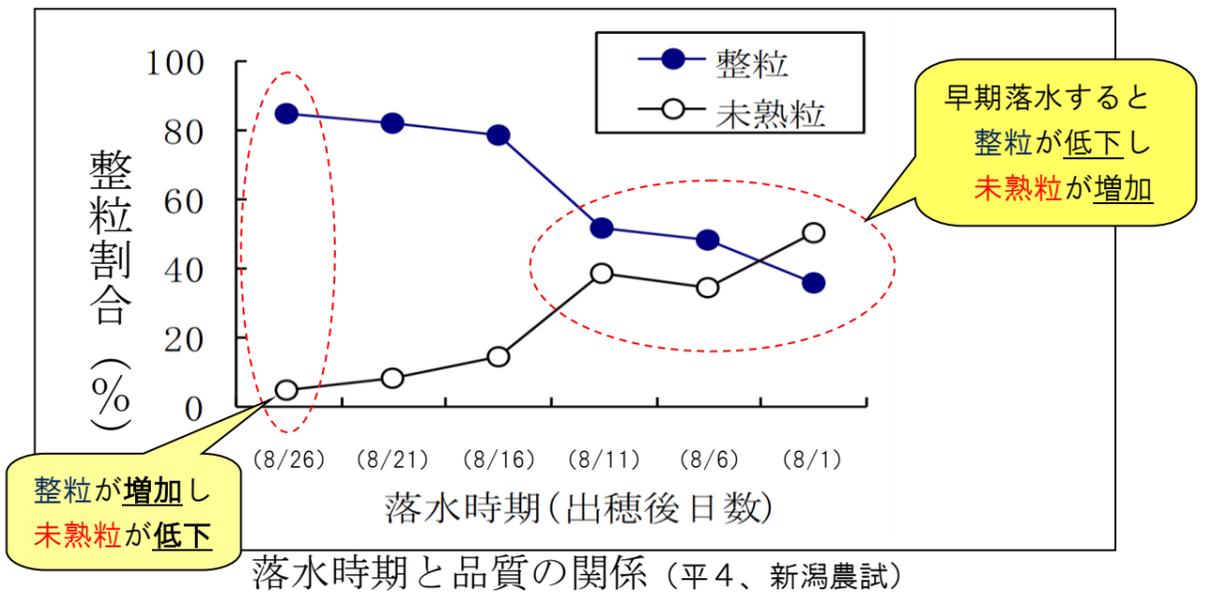
(例) 圃場の水持ち2～3日程度の場合の飽水管理



- ※① 日数はあくまで目安です。地域の実情にあった水管理をお願いします。
- ※② かけ流し等を行わず、限りある用水を地域全体に行き渡るようにしましょう。

(5) 最終かん水は出穂後25日以降とし、早期の落水は避けましょう。

- ・早期落水は、下葉の枯れ上がりや倒伏を助長するだけでなく、登熟不良による未熟粒や着色粒を増加させ、品質低下を招きます。また、粒張りが悪く減収につながります。
- ・コンバイン収穫に支障が生じない範囲で、出穂後25日以降も可能な限りかん水を行い、土壌水分を維持しましょう。暗渠栓の開放は可能な限り遅くしましょう。



(6) 毎日の天気予報に加え県からの情報(台風によるフェーン現象発生に関する緊急情報等)を活用し、地域の水利事情にあった適切な水管理を行いましょう。

2. 斑点米カメムシ

◎向こう1か月の気温は平年比高いと予想されており、**斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動が活発になると推測されます。カメムシ斑点米対策を徹底しましょう！**

- (1) 水田内のヒエやホタルイ等の雑草が結実するとカメムシ類の餌や増殖源となりますので、早めに除去しましょう。
- (2) 雑草が出穂・結実する前に、畦畔・農道の除草をしてください。
・斑点米カメムシは出穂したイネ科雑草（ヒエ・メヒシバ等）を好むため、これらの雑草が畦畔・農道で出穂しないようにすることでカメムシの密度を低く抑えることができます。
・特に、**出穂期前後3週間はイネ科雑草を出穂、結実させないよう草刈りを実施しましょう。**
※高温やフェーン時に枯草が多いと着色粒が発生しやすいので、刈取草は除去して下さい。
- (3) スタークル粒剤の散布適期は出穂期～出穂期7日後です。水深3cm程度の浅水で散布してください。

斑点米カメムシ類の水田畦畔すくい取り結果（7月上旬新潟県病害虫防除所）

種類	確認地点数 (%)				平均虫数 (頭)			
	本年	前年	平年	平年比	本年	前年	平年	平年比
アカスジカスミカメ	71.6	60.8	49.1	高	34.7	12.8	10.6	多
アカヒゲホソミドリカスミカメ	55.4	51.4	44.2	やや高	4.1	2.4	4.5	並
オオトゲシラホシカメムシ	14.9	9.5	10.6	やや高	0.2	0.2	0.2	並
ホソハリカメムシ	4.1	4.1	1.2	高	0.1	0.0	0.0	多
クモヘリカメムシ	1.4	0	0.5	やや高	0.0	0	0.0	並

【イネ科雑草】



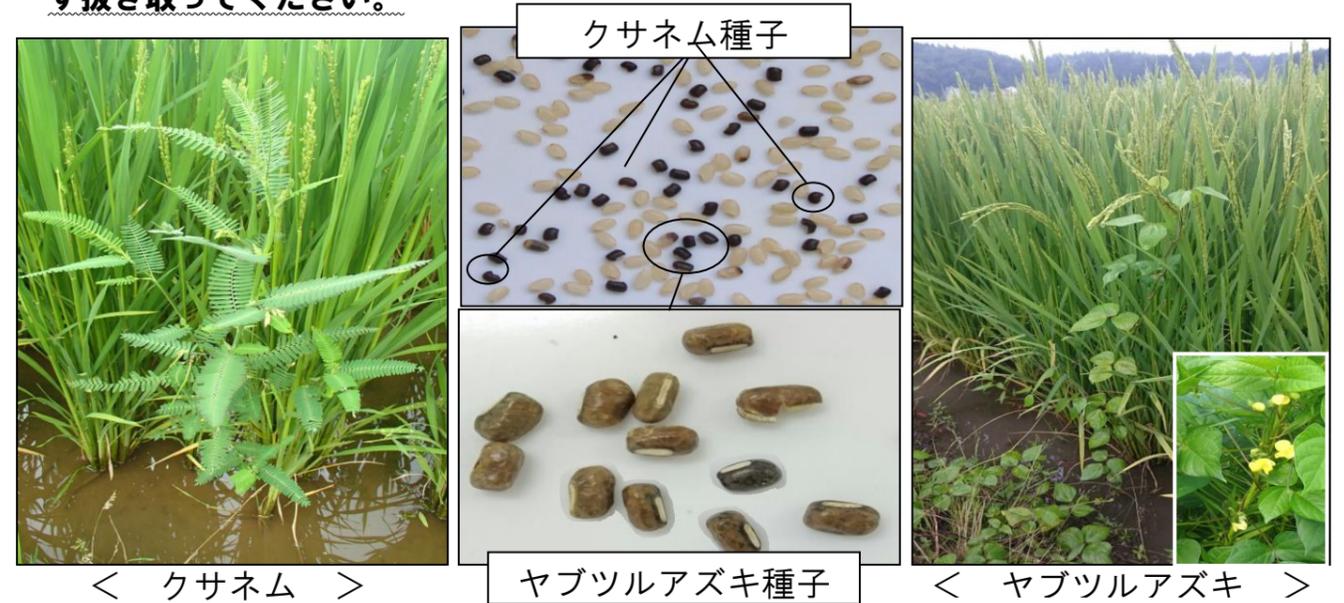
3. 穂いもち対策

◎止葉、上位葉にいもち病斑が見られた場合、穂いもちに移行しやすいので注意してください。

- (1) 新之助で葉いもちの発生が見られた場合は、直ちに茎葉散布による防除を行いましょう。
- (2) 業務用米の多収穫栽培や慣行栽培で葉いもちの発生が見られた場合は、ブラシンフロアブルまたはブラシンゾル等で直ちに防除してください。

4. クサネム・ヤブツルアズキ等の雑草は、収穫前に除去してください

クサネム・ヤブツルアズキ等の黒褐色の種子は、大きさ・形が米粒と似ているため、米に混入すると選別できず、米の等級を落とす要因になります。種子をつける前に必ず抜き取ってください。



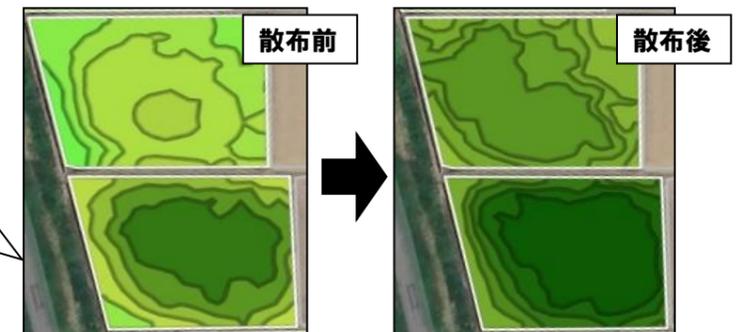
5. スマート農業の取組について ～ザルビオフィールドマネージャー～

指導体制強化を図るため、水稻ほ場を衛星データやAI等による営農支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」を導入し、土壌マップや生育マップ等を活用した指導も視野に進めています。

穂肥指導会でも生産者のみなさまから下記の生育マップなどを見ていただきながら圃場の見える化による指導を実施いたしました。

今後につきまして、生産者のみなさまからもザルビオフィールドマネージャーの導入を進めていただき、新しい営農体制の構築に向けて進めてまいります。

穂肥散布による生育マップの変化が色の濃さで確認できました。また、色の薄い部分を中心に散布を行うことで生育の均一化を行うなど期待できます。



～ 熱中症や農作業事故に注意してください！ ～

- ◎こまめな水分補給と休息で、熱中症に注意しましょう！
- ◎安全確認、休息をとるなど安全運転・安全作業に心がけましょう！

お問い合わせ先

ながおか営農センター ☎0120-915882 ながおか西営農センター ☎0120-915883
とちお営農センター ☎0120-915885

籾の黄化率(85~90%)を圃場ごとに確認して適期に収穫しましょう!

～ 刈り遅れによる胴割粒発生に注意! ～

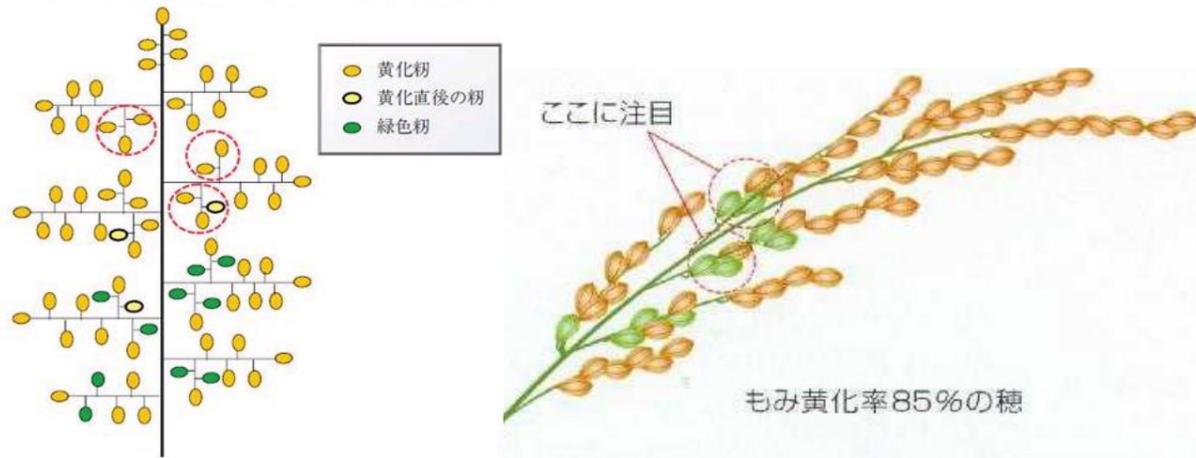
1. 出穂後積算温度による刈取適期のめやす (8月20日現在 JAえちご中越)

	出穂期 (基準日)	刈取適期のめやす	必要積算温度
コシヒカリ	8月4日	9月10日頃	※950℃
越淡麗	8月7日	9月15日頃	975℃
新之助	8月9日	9月19日頃	1,025℃
あきだわら	8月13日	9月27日頃	1,110℃

※8月20日までは本年値、それ以降は平均値(2015~2024)を使用。今後の天気により変わることがあります。

※全品種が高温気象で経過しているため、収穫適期のめやすは平年より50℃(2日程度)早めています。

2. 1穂の上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾が黄化した時期(籾黄化率85~90%程度)が、刈取適期です。



◎ 点線内(上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾)が黄化した時が刈り取り適期。

◎ 籾黄化の診断は1次枝梗が8~9本程度の平均的な穂について行う。調査本数は10穂程度必要。8本以上が該当すれば刈り取り適期。

◎ 収穫は「収穫適期のめやす」を参考にし、ほ場全体を見て籾の黄化割合が85~90%になったことを確認して収穫しましょう。

10月中旬までに「稲わらの“秋すき込み”」と「土づくり肥料の散布」を実施しましょう!

- ◎ 「稲わらの“秋すき込み”」と「土づくり資材の散布」は、水田の地力維持と令和8年産米の高品質・安定生産の準備として、大切な作業です!
- ◎ 水田への稲わら秋すき込みは、**堆肥施用と同等の「土づくり」効果が期待**できます。(図1)
- ◎ 稲わらや籾がらは土づくりとケイ酸の補給に向けて有効活用しましょう。

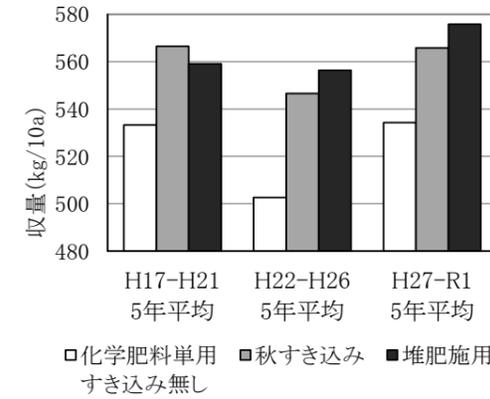
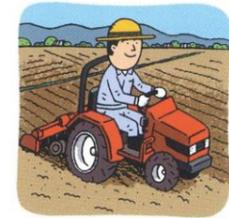
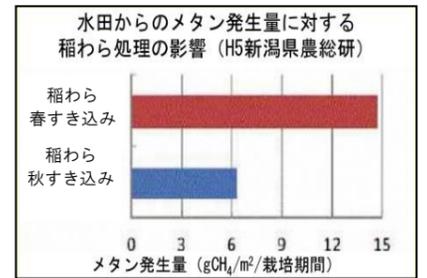


図1 有機物長期連用による収量推移 (H17年~R元年、新潟農総研) ※コシヒカリ場内 現地の2ほ場平均



3. “秋すき込み”の効果

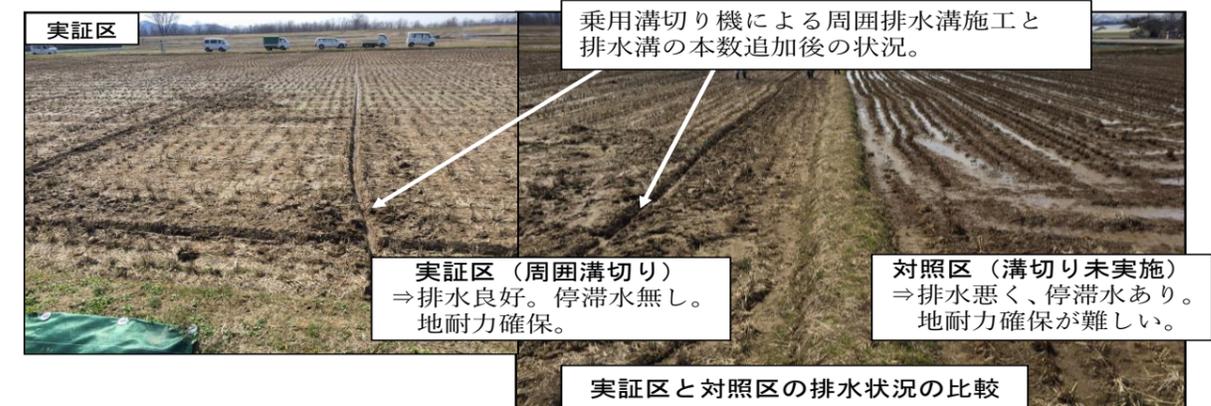
- (1) 土壌の地力窒素が、**稲わら堆肥並み**に維持されます。
- (2) 根腐れの原因となる**ワキの発生が軽減**されます。
- (3) 稲が**吸収可能なケイ酸を増加**させます。
- (4) 水田の**保水力が向上**します。
- (5) 地球温暖化ガスである**メタンの発生を抑制**します。



4. “秋すき込み”の方法

- (1) 地温が15℃以下になると微生物の活性が低下するので、微生物の活動が盛んな(地温15℃以上)10月中旬までに、すき込みましょう。
→ 翌年の稲作期間のワキ(硫化水素やメタン)の発生が少なくなります。
- (2) すき込みの耕深は、作業効率と稲わらの分解促進の為、**5~10cm程度に浅く耕起**しましょう。

※水はけが悪いほ場や、枕地などで滞水し“秋すき込み”が難しいほ場では、可能な限り溝を切って表面排水に努め、田面を乾かしてください。溝は必ず排水口につなげましょう。



【参考】H29年度宮内地域品質向上プロジェクト「砂利採取後排水不良ほ場の排水対策」実証圃の本田準備排水状況 (H29 JA越後ながおか、六日市)

5. 稲わら分解資材を散布しましょう！

腐熟促進材（アグリ革命、アグリ革命アクア、ワラ分解キング等）を、すき込み前に施用すると稲わらの分解が進みます。（※令和7年9月1日現在の当用配達価格です）

ドローンでの散布も可能！

『アグリ革命』 当用配達価格：2,470円（税込）

- ・細粒剤、10a 当り 2kg（1袋）の低散布量。
- ・酵素の力で稲わらを分解するため、乾田・湿田に関係なく土壌環境に影響されにくい。

『ワラ分解キング』 当用配達価格：2,429円（税込）

- ・顆粒剤、10a 当り 10kg（1袋）を散布。
- ・稲わら表面のワックス層分解菌とセルロース分解菌による2種類の分解菌のコンビネーションにより稲わらの分解を促進。

『ファイン』 当用配達価格：3,280円（税込）

- ・粒剤、10a 当り 5kg（1袋）の低散布量。
- ・圃場にいる土着菌の増繁殖を促し、その活性を最大限に引き出しワキや浮きワラを軽減します

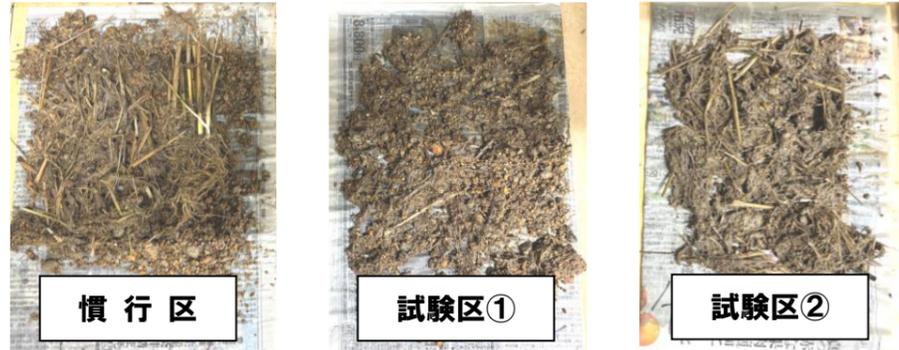
『ワラクサル EX』 当用配達価格：4,110円（税込）

- ・粒剤、10a 当り 9.5kg（1袋）を散布。
- ・圃場にいる土着菌の増繁殖を促し、その活性を最大限に引き出します。
- ・気象条件等の変化にも各ステージで安定した効果が得られます。



【参考：山古志地区における稲わら分解剤試験結果】

資材散布：10月5日（散布後耕起）、 分解状況確認：4月18日



※昨年、ひこばえが多く発生していたが、地温が低く稲わら分解しづらい山間地でも資材効果により細かく分解され浮きわらなどを大幅に減らすことができた。

＜注意＞

エコ・5-5圃場では、「稲わらの腐熟促進を目的」とした場合のみ、「石灰窒素の使用」が可能です。ご使用の場合は、必ず営農担当にご相談下さい。

石灰窒素を、化学肥料または農薬の扱いとして使用する場合は、エコ・5-5栽培基準を満たさなくなりますのでご注意ください。

【※ 県認証の場合、「石灰窒素」は使用できませんのでご注意ください。】

お問い合わせ先	○ながおか営農センター	☎0120-915882
	○ながおか西営農センター	☎0120-915883
	○ながおか西営農センター高瀬事務所	☎0258-27-1880

6. 土づくり資材（ケイ酸、鉄など）を施用しましょう！

管内でケイ酸や鉄が不足しているほ場が目立ちます。ごま葉枯病発生ほ場や下葉が枯れ上がる“秋落ち”水田ではケイ酸質肥料や含鉄資材（ケイカル、ようりん、マルチサポートFe、みつパワー、農力アップ、苦土重焼燐など）を散布しましょう。（※令和7年9月1日現在の当用配達価格です）

＜ケイ酸の効果＞

- ①茎が丈夫になり倒伏しにくくなる。
- ②根の活力が向上する。
- ③いもち病、カメムシ斑点米の発生を抑制する。
- ④高温登熟下の品質向上効果がある。

＜鉄の効果＞

- ①硫化水素（ワキ）を無毒化し根腐れを防止する。
- ②ごま葉枯病にかかりにくくする。



◎「みつパワー」

- ・当用配達価格：1,580円（税込）
- ・散布量目安：60kg～120kg/10a
- ・ケイ酸25%、鉄、マンガンを含んでおり、低コストで総合的な土づくり肥料です。

◎「マルチサポート Fe」

- ・当用配達価格：2,000円（税込）
- ・散布量目安：40kg～60kg/10a
- ・ケイ酸19%、酸化鉄11%入っており、ごま葉枯病や低地力ほ場での秋落ち対策に効果のある総合的な土づくり肥料です。

7. 土づくり肥料の《秋散布》を応援します！

◎土づくり肥料購入支援

- (1) 完熟発酵ケイフン『みやぎ有機(旧イセ有機)15kg』(570円/袋(当用配達価格)) 30袋以上購入・散布すると、**50円/袋**を支援します！

- (2) 下記の「ケイ酸質資材」を基準施用量以上散布いただくと **100円/袋**を支援いたします。(10袋以上の購入が必要です)

【対象品目】	①みつパワー	②ニュー米スター	③マルチサポートFe	④農力アップ
【基準量】	60kg/10a以上	30kg/10a以上	40kg/10a以上	60kg/10a以上

◎土づくり散布作業支援（作業受託支援）

J A重点品目である土づくり資材をJ A作業受委託にて圃場散布を行った作業受託者に対して支援します。

【支援基準】

作業：J A農作業受委託を介し土づくり肥料をほ場散布

助成：散布面積10aあたり、作業受託者(受託者)へ1,500円を支援

散布量：みやぎ有機(旧イセ有機) コシヒカリ 45kg/10a こしいぶき 75kg/10a

肥料名	みつパワー	ニュー米スター	マルチサポートFe	農力アップ
施肥基準	60～120kg/10a	30kg/10a	40～60kg/10a	60kg～100kg
当用配達価格	1,580円/袋	1,730円/袋	2,000円/袋	1,810円/袋

(※令和7年9月1日現在の当用配達価格です)

籾の黄化率(85~90%)を圃場ごとに確認して適期に収穫しましょう!

～ 刈り遅れによる胴割粒発生に注意! ～

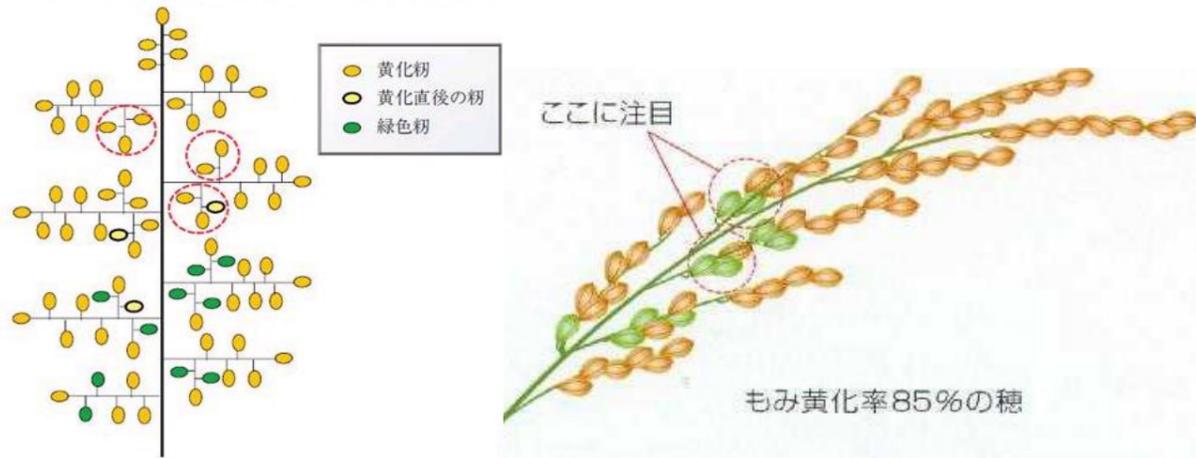
1. 出穂後積算温度による刈取適期のめやす (8月20日現在 JAえちご中越)

	出穂期 (基準日)	刈取適期のめやす	必要積算温度
コシヒカリ(栃尾平場)	8月3日	9月9日頃	※950℃
コシヒカリ(栃尾山間部)	8月6日	9月15日頃	1,000℃
コシヒカリ(山古志・半蔵金)	8月9日	9月20日頃	1,050℃
新之助	8月11日	9月24日頃	1,075℃

※8月20日までは本年値、それ以降は平均値(2015~2024)を使用。今後の天気により変わることがあります。

※コシヒカリ(栃尾平場)は高温気象で経過しているため、収穫適期のめやすは平年より50℃(2日程度)早めています。

2. 1穂の上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾が黄化した時期(籾黄化率85~90%程度)が、刈取適期です。



◎ 点線内(上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾)が黄化した時が刈り取り適期。

◎ 籾黄化の診断は1次枝梗が8~9本程度の平均的な穂について行う。調査本数は10穂程度必要。8本以上が該当すれば刈り取り適期。

◎ 収穫は「収穫適期のめやす」を参考にし、ほ場全体を見て籾の黄化割合が85~90%になったことを確認して収穫しましょう。

10月中旬までに「稲わらの“秋すき込み”」と「土づくり肥料の散布」を実施しましょう!

- ◎ 「稲わらの“秋すき込み”」と「土づくり資材の散布」は、水田の地力維持と令和8年産米の高品質・安定生産の準備として、大切な作業です!
- ◎ 水田への稲わら秋すき込みは、**堆肥施用と同等の「土づくり」効果が期待**できます。(図1)
- ◎ 稲わらや籾がらは土づくりとケイ酸の補給に向けて有効活用しましょう。

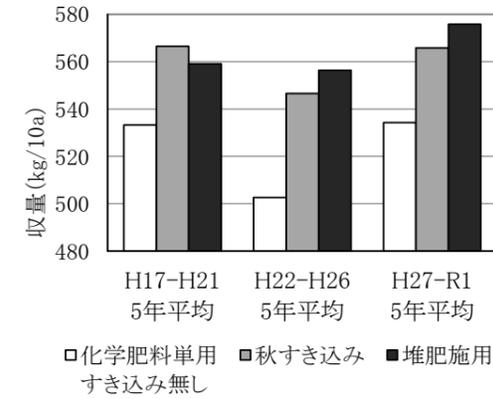
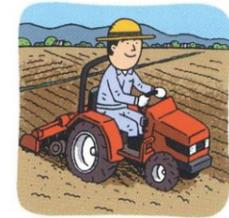
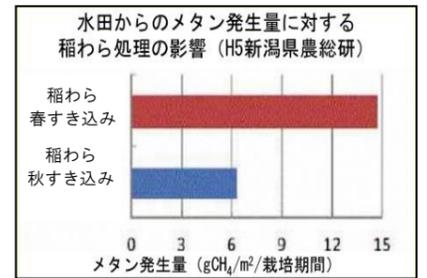


図1 有機物長期連用による収量推移 (H17年~R元年、新潟農総研)
※コシヒカリ場内 現地の2ほ場平均



3. “秋すき込み”の効果

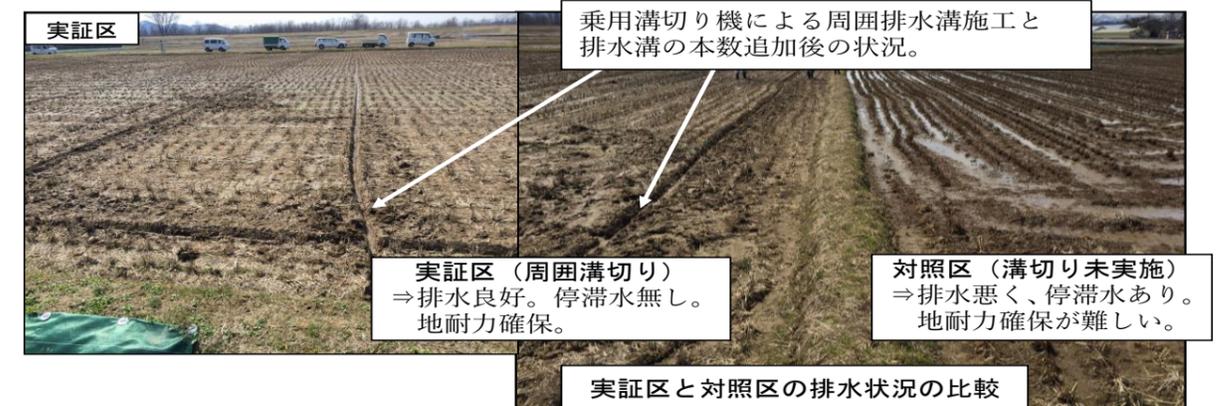
- (1) 土壌の地力窒素が、**稲わら堆肥並み**に維持されます。
- (2) 根腐れの原因となる**ワキの発生が軽減**されます。
- (3) 稲が**吸収可能なケイ酸を増加**させます。
- (4) 水田の**保水力が向上**します。
- (5) 地球温暖化ガスである**メタンの発生を抑制**します。



4. “秋すき込み”の方法

- (1) 地温が15℃以下になると微生物の活性が低下するので、微生物の活動が盛んな(地温15℃以上)10月中旬までに、すき込みましょう。
→ 翌年の稲作期間のワキ(硫化水素やメタン)の発生が少なくなります。
- (2) すき込みの耕深は、作業効率と稲わらの分解促進の為、**5~10cm程度に浅く耕起**しましょう。

※水はけが悪いほ場や、枕地などで滞水し“秋すき込み”が難しいほ場では、可能な限り溝を切って表面排水に努め、田面を乾かしてください。溝は必ず排水口につなげましょう。



【参考】H29年度宮内地域品質向上プロジェクト「砂利採取後排水不良ほ場の排水対策」
実証圃の本田準備排水状況 (H29 JA 越後ながおか、六日市)

5. 稲わら分解資材を散布しましょう！

腐熟促進材（アグリ革命、アグリ革命アクア、ワラ分解キング等）を、すき込み前に施用すると稲わらの分解が進みます。（※令和7年9月1日現在の当用配達価格です）

ドローンでの散布も可能！

『アグリ革命』 当用配達価格：2,470円（税込）

- ・細粒剤、10a 当り 2kg（1袋）の低散布量。
- ・酵素の力で稲わらを分解するため、乾田・湿田に関係なく土壌環境に影響されにくい。

『ワラ分解キング』 当用配達価格：2,429円（税込）

- ・顆粒剤、10a 当り 10kg（1袋）を散布。
- ・稲わら表面のワックス層分解菌とセルロース分解菌による2種類の分解菌のコンビネーションにより稲わらの分解を促進。

『ファイン』 当用配達価格：3,280円（税込）

- ・粒剤、10a 当り 5kg（1袋）の低散布量。
- ・圃場にいる土着菌の増繁殖を促し、その活性を最大限に引き出しワキや浮きワラを軽減します

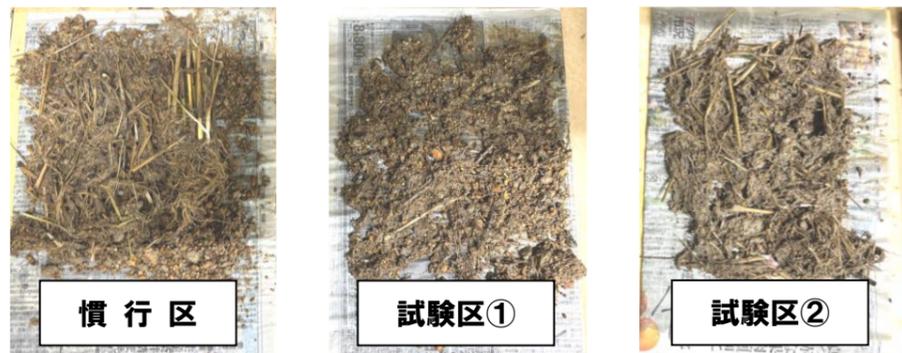
『ワラクサル EX』 当用配達価格：4,110円（税込）

- ・粒剤、10a 当り 9.5kg（1袋）を散布。
- ・圃場にいる土着菌の増繁殖を促し、その活性を最大限に引き出します。
- ・気象条件等の変化にも各ステージで安定した効果が得られます。



【参考：山古志地区における稲わら分解剤試験結果】

資材散布：10月5日(散布後耕起)、 分解状況確認：4月18日



※昨年、ひこばえが多く発生していたが、地温が低く稲わら分解しづらい山間地でも資材効果により細かく分解され浮きわらなどを大幅に減らすことができた。

＜注意＞

エコ・5-5圃場では、「稲わらの腐熟促進を目的」とした場合のみ、「石灰窒素の使用」が可能です。ご使用の場合は、必ず営農担当にご相談下さい。

石灰窒素を、化学肥料または農薬の扱いとして使用する場合は、エコ・5-5栽培基準を満たさなくなりますのでご注意ください。

【※ 県認証の場合、「石灰窒素」は使用できませんのでご注意ください。】

お問い合わせ先	○ながおか営農センター	☎0120-915882
	○とちお営農センター	☎0120-915885

6. 土づくり資材（ケイ酸、鉄など）を施用しましょう！

管内でケイ酸や鉄が不足しているほ場が目立ちます。ごま葉枯病発生ほ場や下葉が枯れ上がる“秋落ち”水田ではケイ酸質肥料や含鉄資材（ケイカル、ようりん、マルチサポートFe、みつパワー、農力アップ、苦土重焼燐など）を散布しましょう。（※令和7年9月1日現在の当用配達価格です）

＜ケイ酸の効果＞

- ①茎が丈夫になり倒伏しにくくなる。
- ②根の活力が向上する。
- ③いもち病、カメムシ斑点米の発生を抑制する。
- ④高温登熟下の品質向上効果がある。

＜鉄の効果＞

- ①硫化水素（ワキ）を無毒化し根腐れを防止する。
- ②ごま葉枯病にかかりにくくする。



◎「みつパワー」

- ・当用配達価格：1,580円（税込）
- ・散布量目安：60kg～120kg/10a
- ・ケイ酸25%、鉄、マンガンを含んでおり、低コストで総合的な土づくり肥料です。

◎「マルチサポート Fe」

- ・当用配達価格：2,000円（税込）
- ・散布量目安：40kg～60kg/10a
- ・ケイ酸19%、酸化鉄11%入っており、ごま葉枯病や低地力ほ場での秋落ち対策に効果のある総合的な土づくり肥料です。

7. 土づくり肥料の《秋散布》を応援します！

◎土づくり肥料購入支援

- (1) 完熟発酵ケイフン『みやぎ有機(旧イセ有機)15kg』(570円/袋(当用配達価格)) 30袋以上購入・散布すると、**50円/袋**を支援します！

- (2) 下記の「ケイ酸質資材」を基準施用量以上散布いただくと**100円/袋**を支援いたします。(10袋以上の購入が必要です)

【対象品目】	①みつパワー	②ニュー米スター	③マルチサポートFe	④農力アップ
【基準量】	60kg/10a以上	30kg/10a以上	40kg/10a以上	60kg/10a以上

◎土づくり散布作業支援（作業受託支援）

J A重点品目である土づくり資材をJ A作業受委託にて圃場散布を行った作業受託者に対して支援します。

【支援基準】

作業：J A農作業受委託を介し土づくり肥料をほ場散布

助成：散布面積10aあたり、作業受託者(受託者)へ1,500円を支援

散布量：みやぎ有機(旧イセ有機) コシヒカリ 45kg/10a こしいぶき 75kg/10a

肥料名	みつパワー	ニュー米スター	マルチサポートFe	農力アップ
施肥基準	60～120kg/10a	30kg/10a	40～60kg/10a	60kg～100kg
当用配達価格	1,580円/袋	1,730円/袋	2,000円/袋	1,810円/袋

(※令和7年9月1日現在の当用配達価格です)